



地域経済動向調査報告書

～平成 28 年度 伴走型小規模事業者支援推進事業～

平成 28 年 12 月

壬生町商工会

目次

1. 壬生町の概要.....	3
1.1. 壬生町の人口動態.....	3
1.1.1. 壬生町の人口動態推移.....	3
1.1.2. 壬生町の高齢化率の推移.....	4
1.1.3. 壬生町の年代別人口増減と転入転出状況.....	5
1.2. 壬生町の経済概要.....	7
1.2.1. 壬生町の地域経済循環状況.....	7
1.2.2. 壬生町の産業別経済循環と生産状況（2010年）.....	8
1.2.3. 壬生町の産業別就業者数の割合（2010年）.....	11
1.2.4. 壬生町の産業別売上金額の割合（2014年）.....	12
1.2.5. 壬生町の一人当たりの産業別売上金額の割合（2014年）.....	13
1.2.6. 壬生町の産業別特化係数（卸・小売業）.....	14
2. 壬生町の第1次産業.....	15
2.1. 壬生町の農産物の販売額.....	15
2.2. 壬生町の農林水産業.....	16
2.3. 壬生町の農産物の出荷先.....	17
3. 壬生町の第2次産業.....	18
3.1. 壬生町の工業動向.....	18
3.1.1. 壬生町の工業製品出荷額の推移.....	18
3.1.2. 壬生町の工業従事者の推移.....	18
3.1.3. 壬生町の工業粗付加価値額の推移.....	19
3.1.4. 壬生町の1人あたりの粗付加価値額の推移.....	19
4. 壬生町の第3次産業.....	20
4.1. 壬生町の商業動向.....	20
4.1.1. 壬生町の年間商業販売額の推移.....	20
4.1.2. 壬生町の商業の従業者数の推移.....	20
4.1.3. 壬生町の商業従事者一人当たり年間商品販売額の推移.....	21
4.2. 壬生町の商業の産業分類別動向.....	21
4.2.1. 壬生町の卸・小売業の事業所数推移.....	21
4.2.2. 壬生町の卸・小売業の年間商品販売額推移.....	22
4.2.3. 壬生町の小売業の事業所数の推移.....	22
4.2.4. 壬生町の小売業の産業分類別年間商品販売額の推移.....	23
4.2.5. 壬生町の小売業の産業分類別1事業所あたり年間商品販売額の推移.....	24
4.2.6. 壬生町の小売業の産業分類別従業員数の推移.....	26
4.2.7. 壬生町の小売業の産業分類別従業員1人あたり年間商品販売額推移.....	27

5. 壬生町のその他の指標	29
5.1. 壬生町の黒字赤字企業比率	29
5.2. 壬生町の労働生産性	30
5.2.1. 壬生町の産業全体の労働生産性.....	30
5.2.2. 壬生町の1次産業の労働生産性.....	30
5.2.3. 壬生町の2次産業の労働生産性.....	31
5.2.4. 壬生町の3次産業の労働生産性.....	31
5.2.5. 壬生町の3次産業の産業分類別労働生産性	32
5.3. 壬生町の建築動向	33
5.3.1. 壬生町の住宅用建築物数の推移.....	33
5.3.2. 壬生町の住宅用建築物の床面積合計の推移.....	33
5.3.3. 壬生町の住宅用建築物の工事費予定額合計の推移.....	34

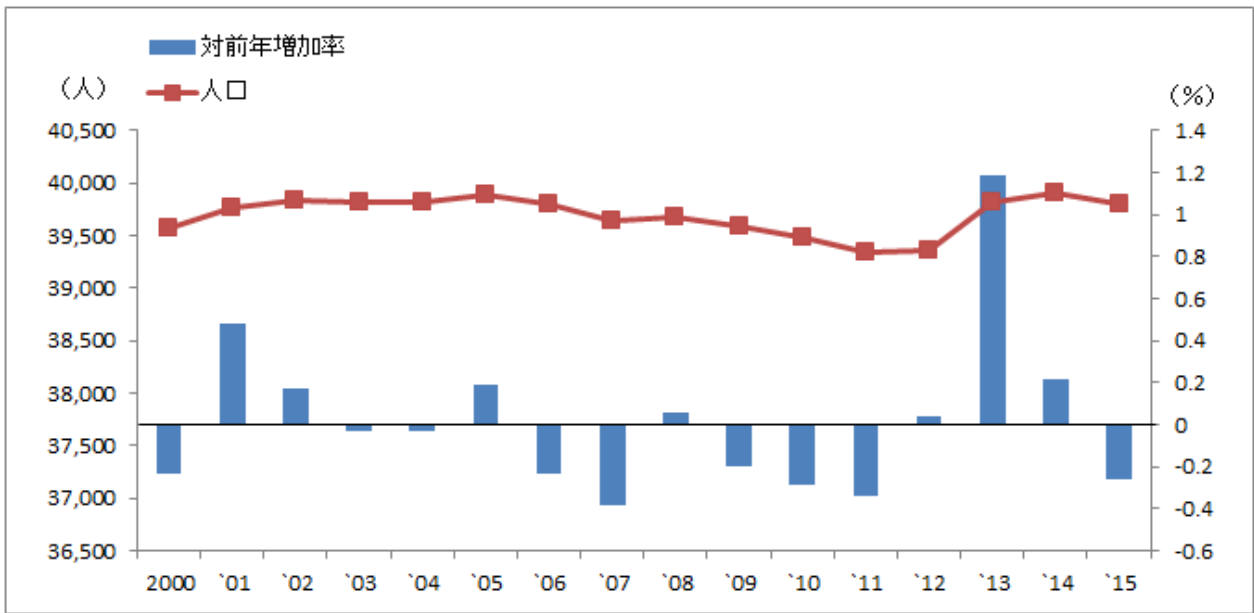
1. 壬生町の概要

1.1. 壬生町の人口動態

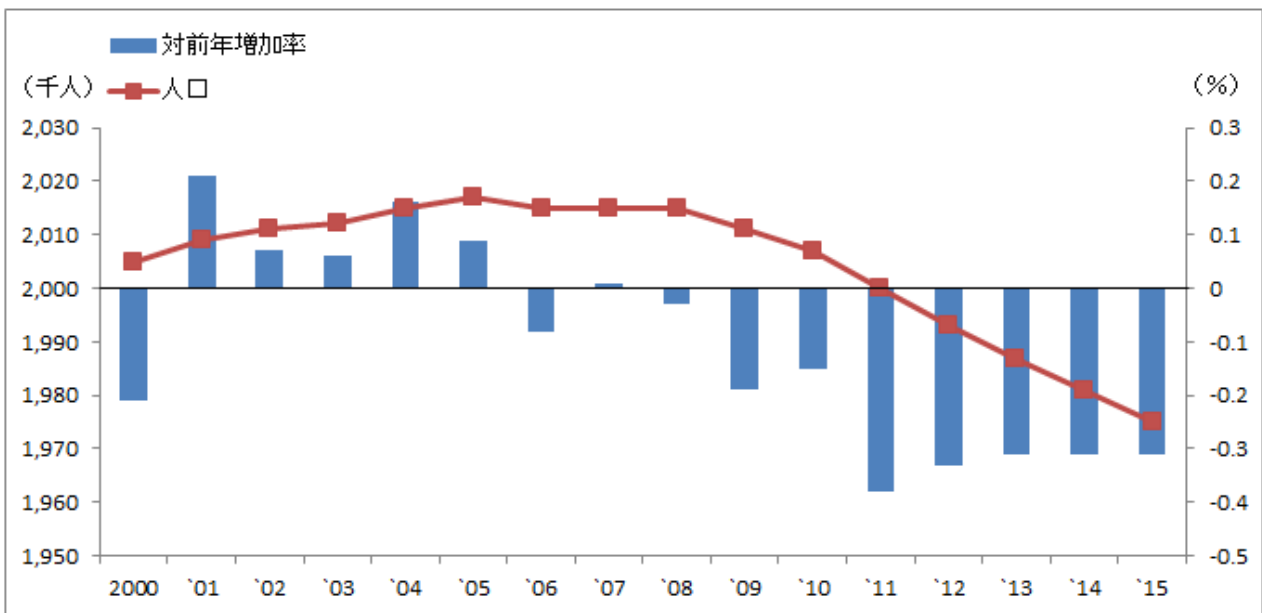
1.1.1. 壬生町の人口動態推移

- ・ 壬生町の 2016 年の人口は、39,808 人であり、前年より 0.26%減少している。栃木県は 0.31%減のため、県平均よりも直近の人口の減少は緩やかとなっている。
- ・ 2015 年は減少したものの、近年は増加傾向となっている。

図表：壬生町[上]と栃木県[下]の人口の推移対比



出典：壬生町『27年度版まちのすがた～統計から見た壬生町～』より筆者作成

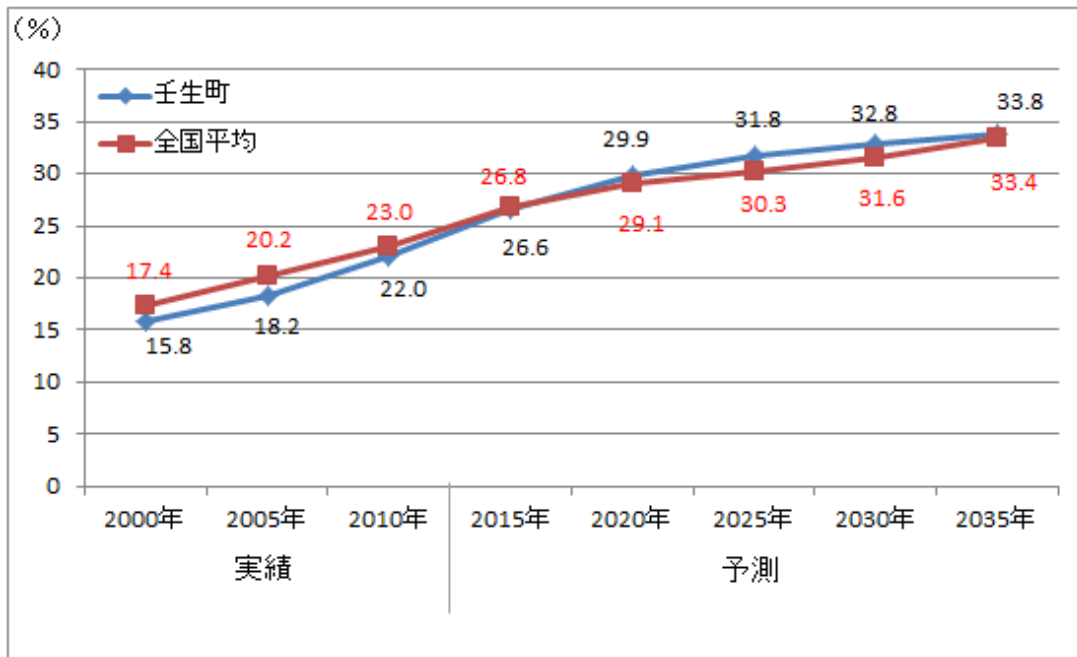


出典：栃木県『平成 27 年栃木県の人口（栃木県毎月人口調査報告書）』より筆者作成

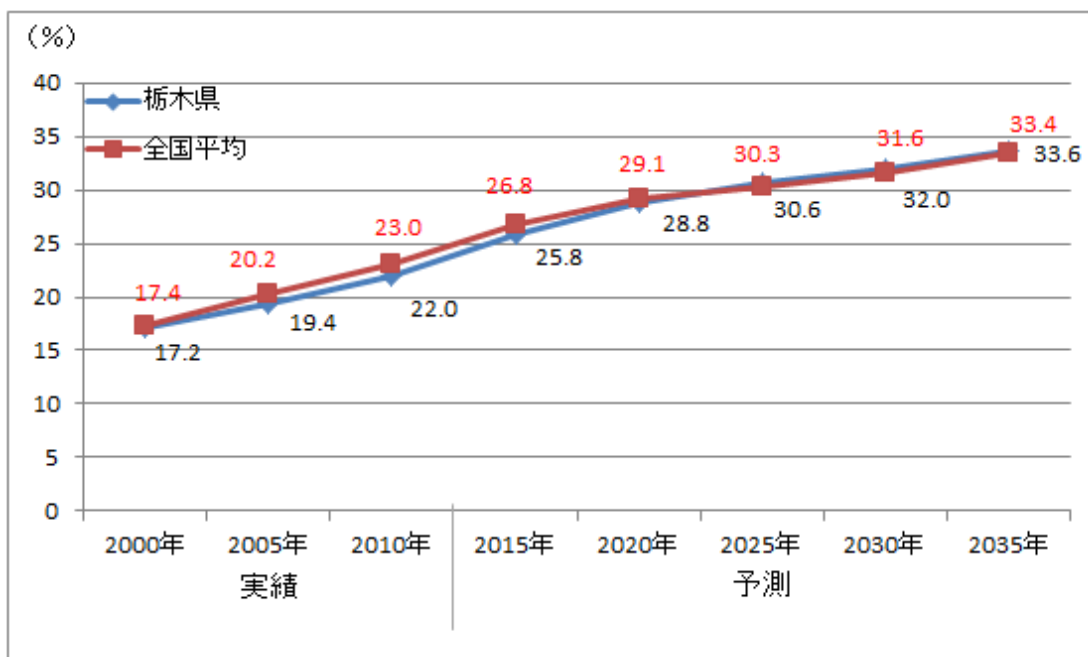
1.1.2. 壬生町の高齢化率の推移

- ・ 壬生町の2010年度の高齢化率（65歳以上の割合）は、22.0%で全国平均より少し低い結果となった。栃木県全体の高齢化率も22.0%であるため、県内平均と同程度の高齢化率となっている。
- ・ このまま高齢化が進んだ場合、2035年には33.8%まで上昇し、3人に1人以上が高齢者になると見込まれる。

図表：壬生町[上]と栃木県[下]の高齢化率の推移対比



出典：壬生町『壬生町人口ビジョン壬生町創生総合戦略』、内閣府『平成27年版高齢社会白書』より筆者作成

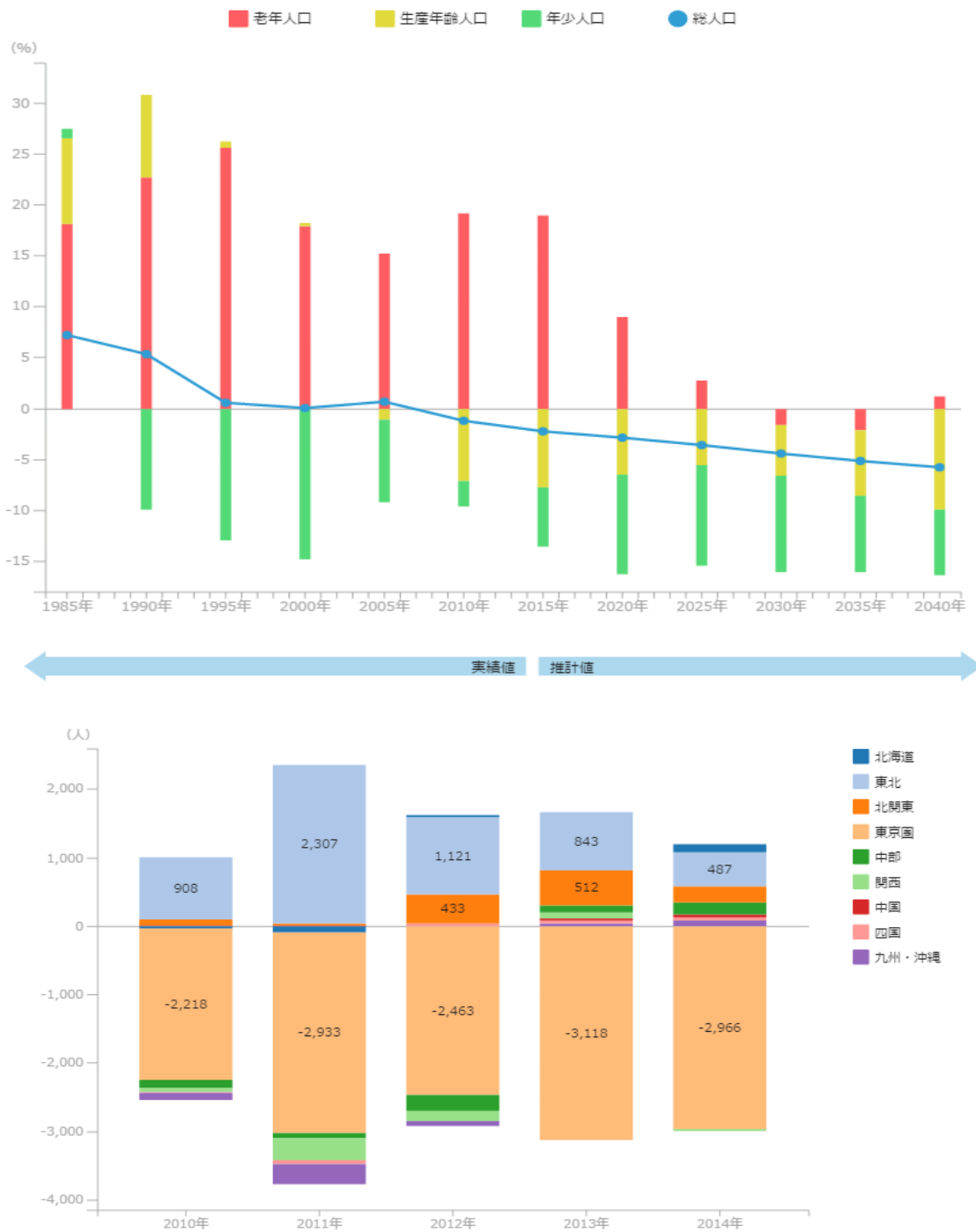


出典：栃木県『栃木県保健医療計画（6期計画）』より筆者作成

1.1.3. 壬生町の年代別人口増減と転入転出状況

- ・ 2000 年から生産年齢人口の減少が始まり、減少幅は拡大し続けている。一方、高齢人口は増え続けている。2020 年からは、高齢人口の増加率も減少に転じるため、人口全体の減少率が増加していく。
- ・ 栃木県全体は、転入より転出、特に東京圏への転出が多い。また、近年の傾向として、北関東からの転入が増加している。

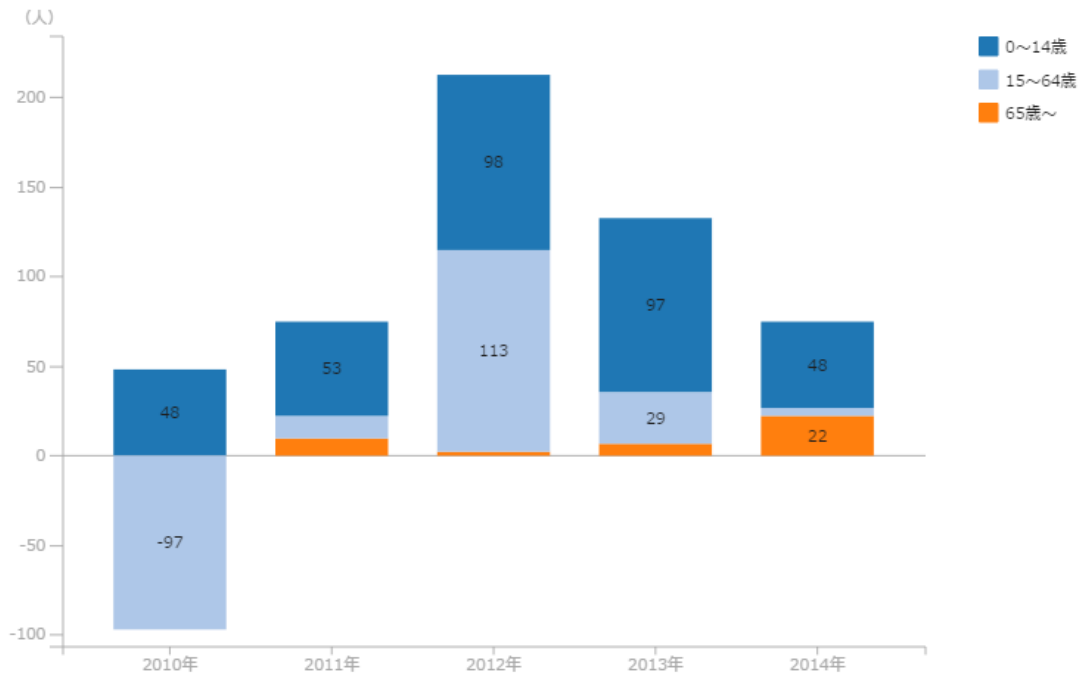
図表：壬生町の人口増減[上]/栃木県の地域ブロック別純移動数[下]



出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者抜粋

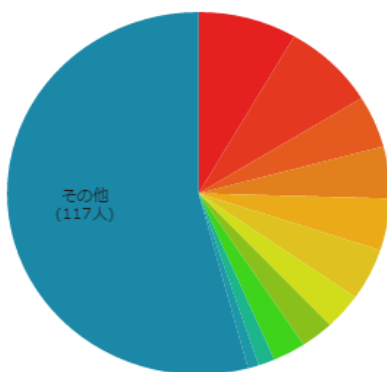
- ・2011年以降、壬生町は転出より転入が多い状況が続いている。特に、0～14歳の転入が転入全体の中でも半数以上を占めている。
- ・宇都宮市や真岡市からの転入が多い一方で、転出は上三川町が特に多い状況となっている。

図表：壬生町の年齢階級別純移動数[上]/壬生町のFrom-to分析（2014年）[下]



転入超過数内訳

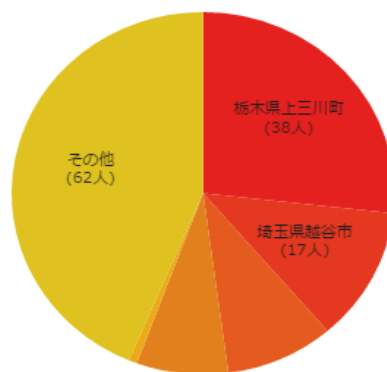
総数



- 1位 栃木県宇都宮市 18人 (8.3%)
- 2位 栃木県真岡市 17人 (7.9%)
- 3位 神奈川県川崎市中原区 10人 (4.6%)
- 4位 栃木県高根沢町 10人 (4.6%)
- 5位 栃木県野木町 10人 (4.6%)
- 6位 栃木県さくら市 10人 (4.6%)
- 7位 栃木県鹿沼市 7人 (3.2%)
- 8位 栃木県日光市 6人 (2.8%)
- 9位 栃木県佐野市 6人 (2.8%)
- 10位 栃木県矢板市 3人 (1.4%)

転出超過数内訳

総数



- 1位 栃木県上三川町 38人 (26.8%)
- 2位 埼玉県越谷市 17人 (12%)
- 3位 栃木県栃木市 13人 (9.2%)
- 4位 栃木県大田原市 11人 (7.7%)
- 5位 栃木県下野市 1人 (0.7%)
- 6位 その他 62人 (43.7%)

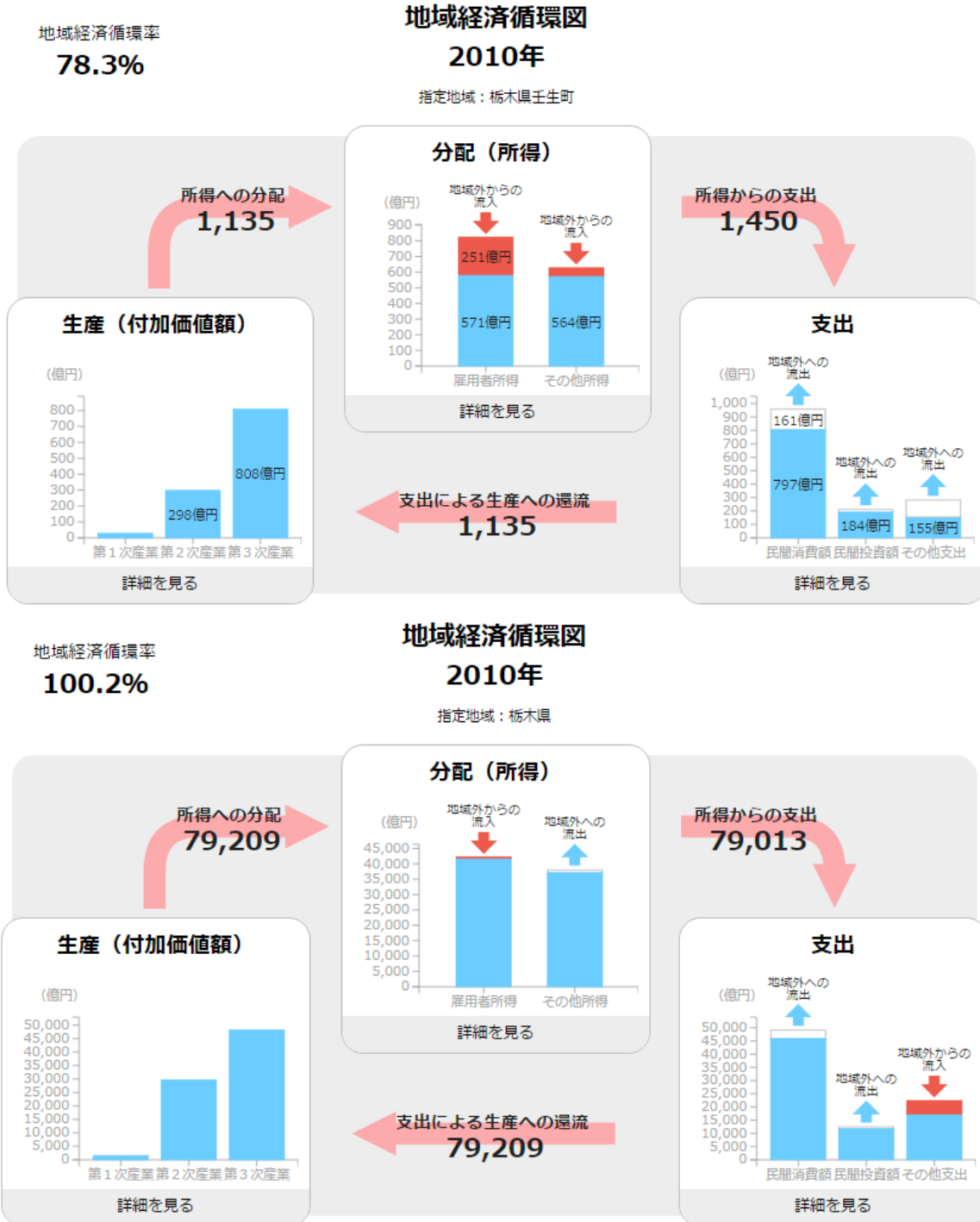
出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者抜粋

1.2. 壬生町の経済概要

1.2.1. 壬生町の地域経済循環状況

・生産（付加価値額）を分配（所得）で除した地域経済循環率は、地域経済の自立度を示しており、値が低い程他地域から流入する所得に対する依存度が高い。壬生町地域経済循環率は78.3%と栃木県全体の100.2%よりも低い。なお隣接している群馬県全体では98%、茨城県全体では99%である。

図表：壬生町[上]と栃木県[下]の地域経済循環図比較



出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者抜粋

1.2.2. 壬生町の産業別経済循環と生産状況（2010年）

- ・ 壬生町は、栃木県の平均に比べ一人あたりが生み出す付加価値額が低い。1次産業 59万円、2次産業 329万円、3次産業 7万円とそれぞれ低くなっている。
- ・ 雇用者所得も栃木県の平均より低く、民間消費の支出流入率はマイナス 20.6%となっている。

付加価値額（一人当たり）

	第1次産業	第2次産業	第3次産業
壬生町：付加価値額（一人当たり）	196万円	633万円	798万円
栃木県：付加価値額（一人当たり）	255万円	962万円	805万円

所得（一人当たり）

	雇用者所得	その他所得
壬生町：所得（一人当たり）	423万円	158万円
栃木県：所得（一人当たり）	432万円	183万円

支出流出率

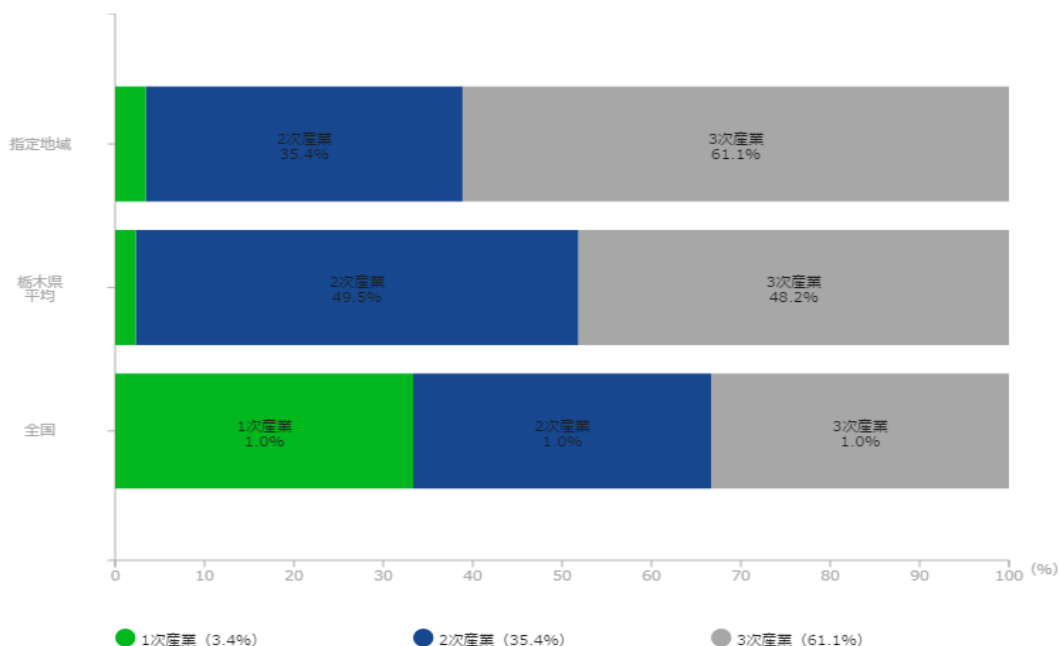
	民間消費	民間投資	その他支出
壬生町：支出流出率	-16.80%	-13.0%	-45.0%
栃木県：支出流出率	-7.30%	-9.2%	28.2%

出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者抜粋

■産業別生産額の対比

- ・ 壬生町は、栃木県の平均と比べ3次産業の生産額の割合が高くなっている。

図表：産業構成の割合：生産額（総額）

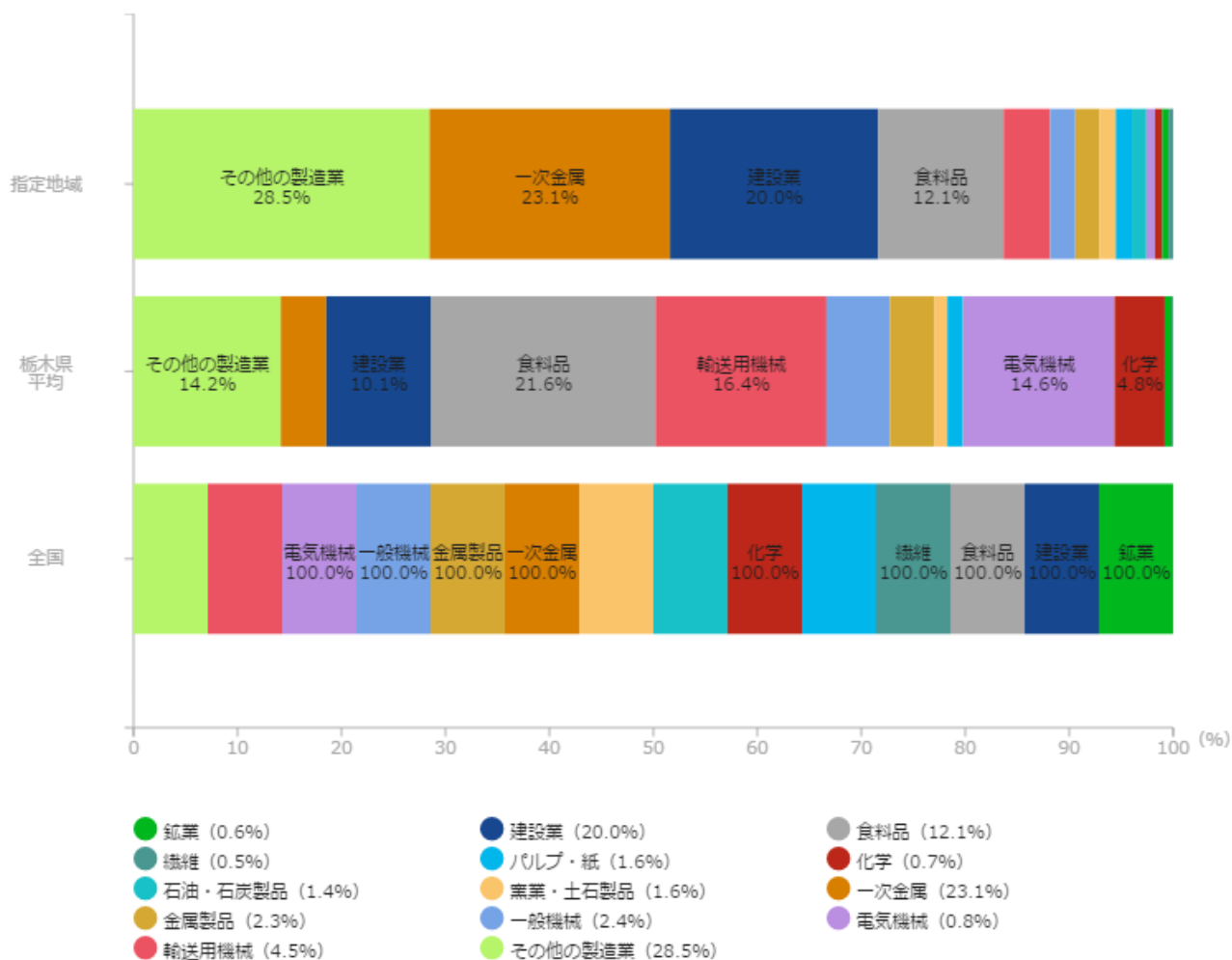


出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者抜粋

■2次産業と3次産業の生産額の割合

・壬生町の2次産業は、「その他製造業」「一次金属製造業」「建設業」の3業種で全体の約7割を占めており栃木県平均・全国と比べ偏りが大きくなっている。

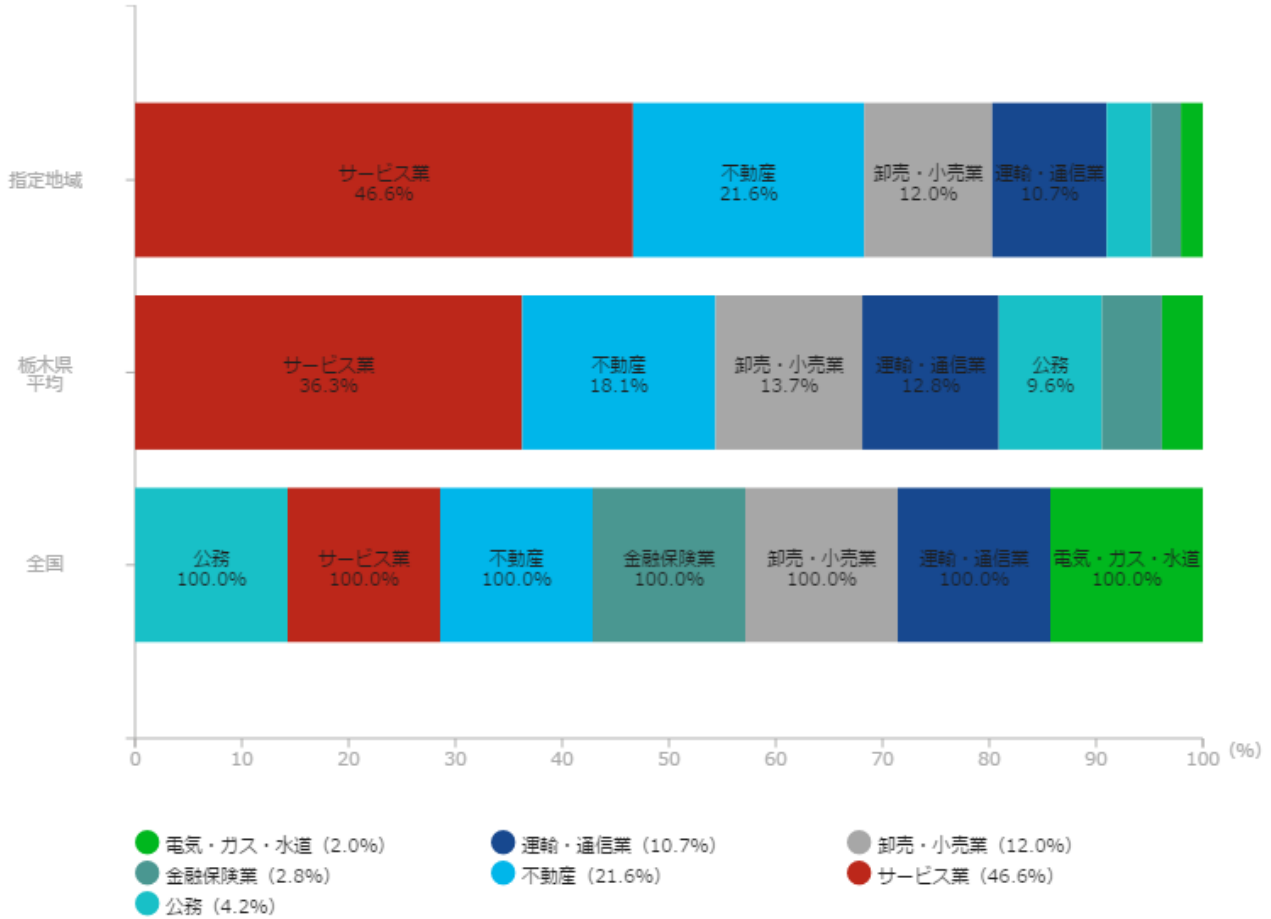
図表：2次産業の生産額の割合



出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者抜粋

・3次産業では、県平均・全国と比べサービス業の生産額の割合が高く、公務による生産割合がひくくなっている。

図表：3次産業の割合

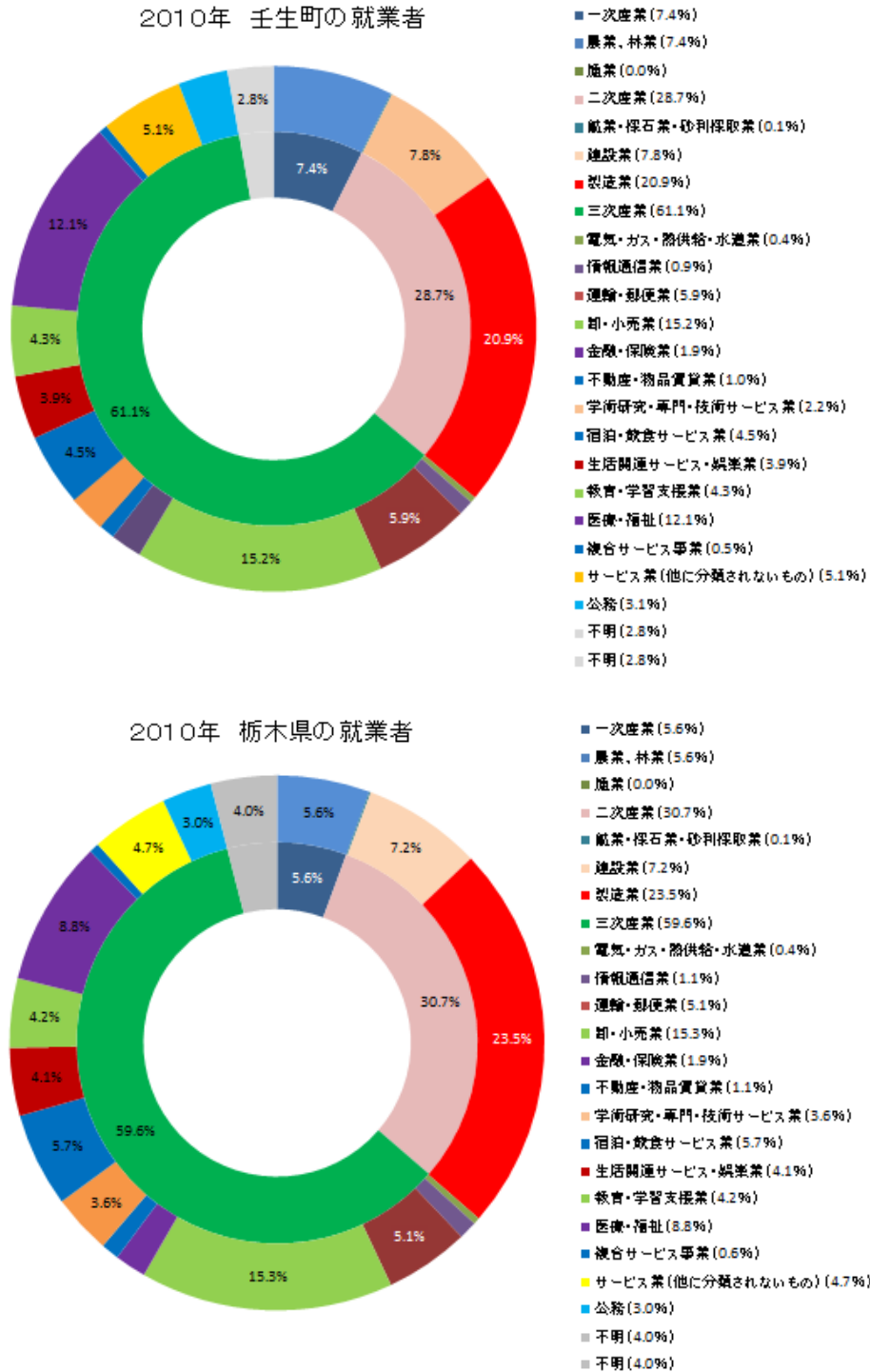


出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者抜粋

1.2.3. 壬生町の産業別就業者数の割合（2010年）

- ・壬生町は、栃木県全体に比べて2次産業の就業者の割合が2.0%低く、3次産業の就業者割合は1.5%高くなっており、上記生産額の分析内容と比例していることが分かる。
- ・2次産業では、製造業の従事者が最も多く（20.9%）、3次産業では卸・小売業が最も多い（15.2%）

図表：壬生町[上]と栃木県[下]の産業/業種別就業者の割合

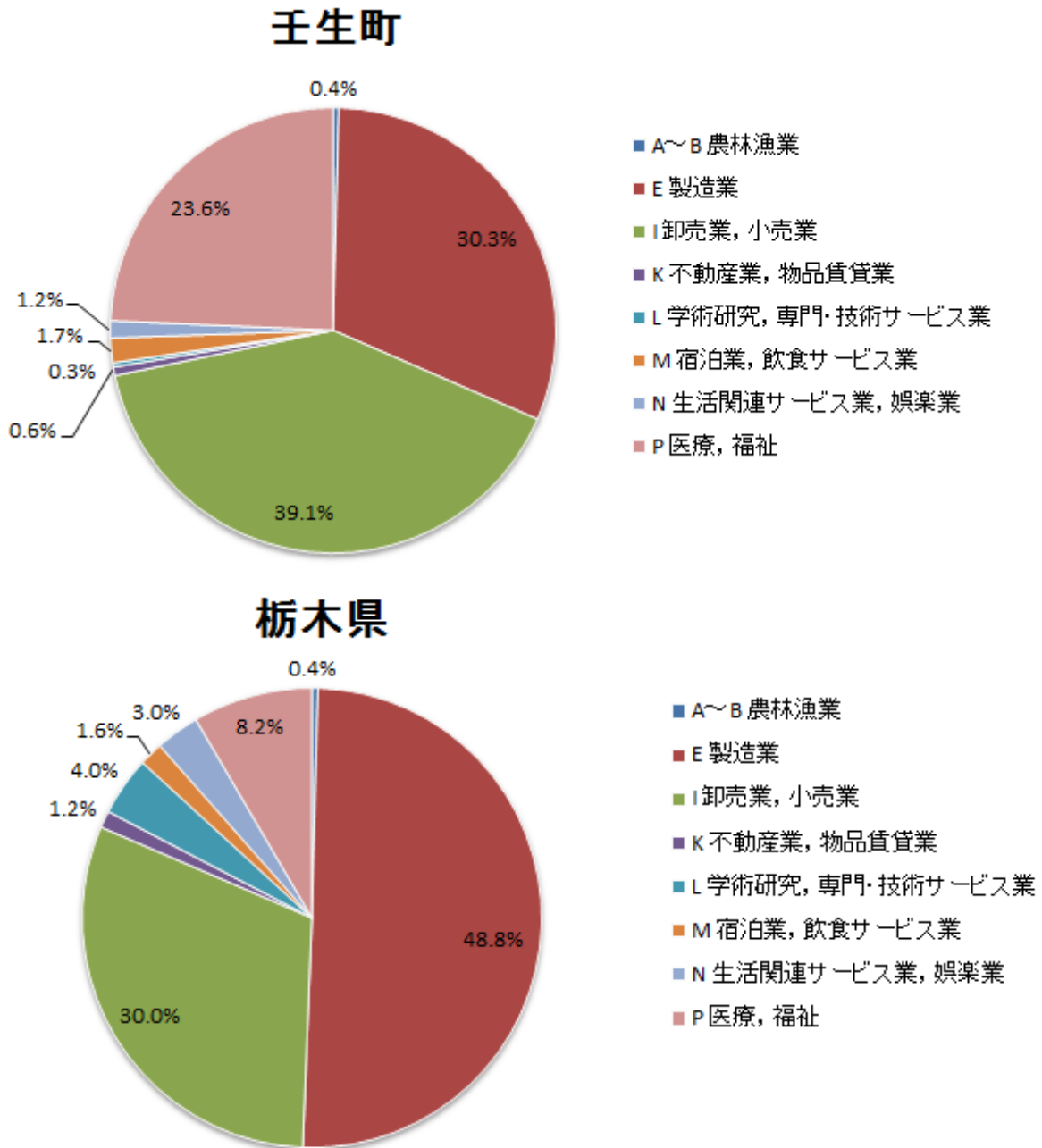


出典：総務省『国勢調査』より筆者作成

1.2.4. 壬生町の産業別売上金額の割合（2014年）

- ・2014年、壬生町で最も売上を上げたのは卸・小売業で、全体の約4割の売上を占めている。その次に製造業が続いている。
- ・特に医療福祉の売上額の割合が、栃木県平均と比べ高くなっている。

図表：壬生町[上]と栃木県[下]の産業（大分類）ごとの売上金額割合



出典：総務省『経済センサス-基礎調査_平成26年』より筆者作成

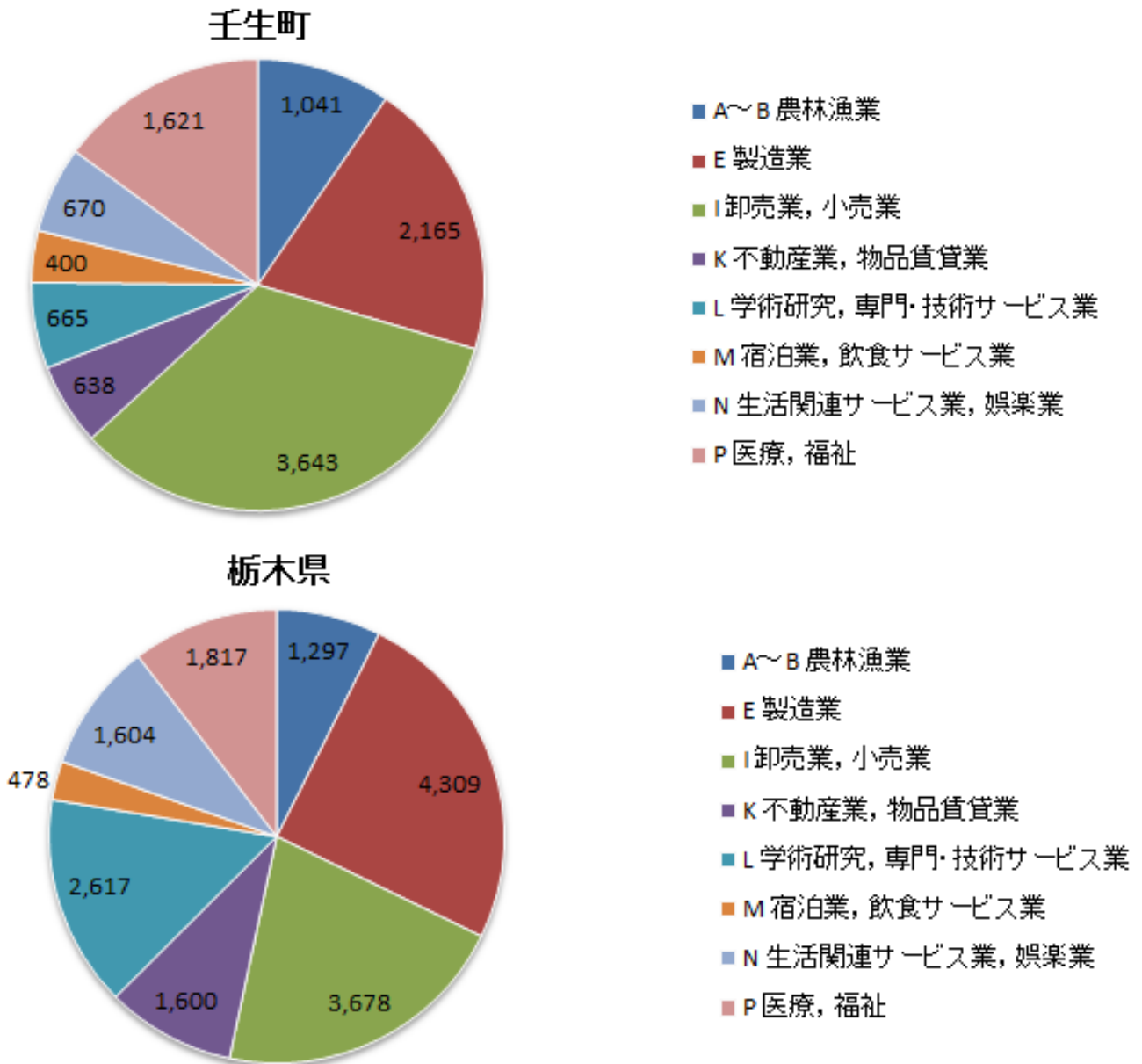
※C 鉱業、採石業、砂利採取業 D 建築業 F 電気、ガス熱供給、水道業 G 情報通信業 H 運輸、郵便業 J 金融業、保険業 O 教育、学習支援業 Q 複合サービス業 R サービス業（他に分類されないもの）は必要な数値の統計が存在しないため対象外

1.2.5. 壬生町の一人当たりの産業別売上金額の割合（2014年）

- ・2014年、壬生町で最も一人当たり売上高が高かった産業は卸・小売業（3,643万円）であった。しかし栃木県全体と比較すると35万円程度低くなっている。
- ・2位は製造業（2,165万円）で、こちらは栃木県の平均（4,309万円）の約半分となっている。

図表：壬生町[上]と栃木県[下]の産業（大分類）ごとの一人当たり売上割合

単位：万円



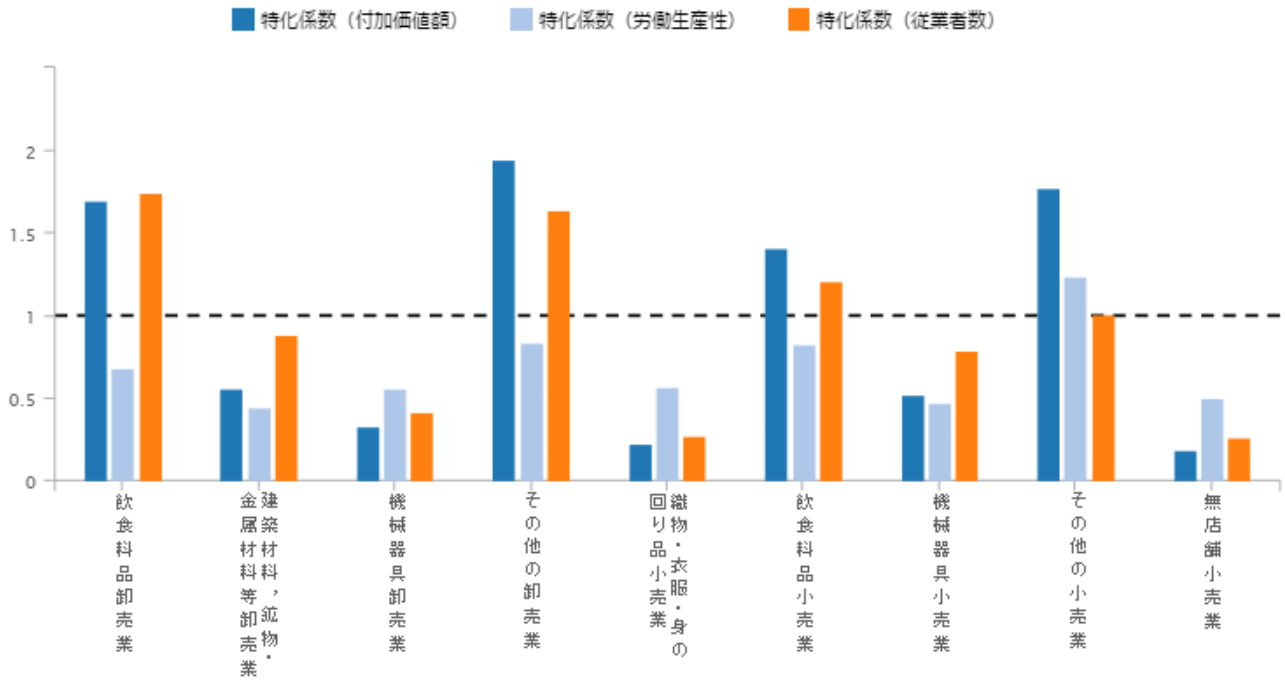
出典：総務省『経済センサス-基礎調査_平成26年』より筆者作成

※C 鉱業、採石業、砂利採取業 D 建築業 F 電気、ガス熱供給、水道業 G 情報通信業 H 運輸、郵便業 J 金融業、保険業 O 教育、学習支援業 Q 複合サービス業 R サービス業（他に分類されないもの）は必要な数値の統計が存在しないため対象外

1.2.6. 壬生町の産業別特化係数（卸・小売業）

- ・付加価値額と従業員数の特化係数については飲食料品卸売業、その他卸売業、飲食料品小売業の3つが全国平均に比べ上回っている。
- ・一方で、労働生産はその他小売業以外すべての業種で全国より下回っている。

図表：壬生町の産業別特化係数



出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者抜粋

※特化係数：域内のある産業の比率を全国と同産業の比率と比較したもの。1.0を超えていれば、当該産業が全国に比べて特化している産業とされる。労働生産性の場合、当該産業の数値を1としたときのある地域の当該産業の数値。

※労働生産性 = 付加価値額（企業単位） ÷ 従業員数（企業単位）

以降は

2. 第1次産業

3. 第2次産業

4. 第3次産業

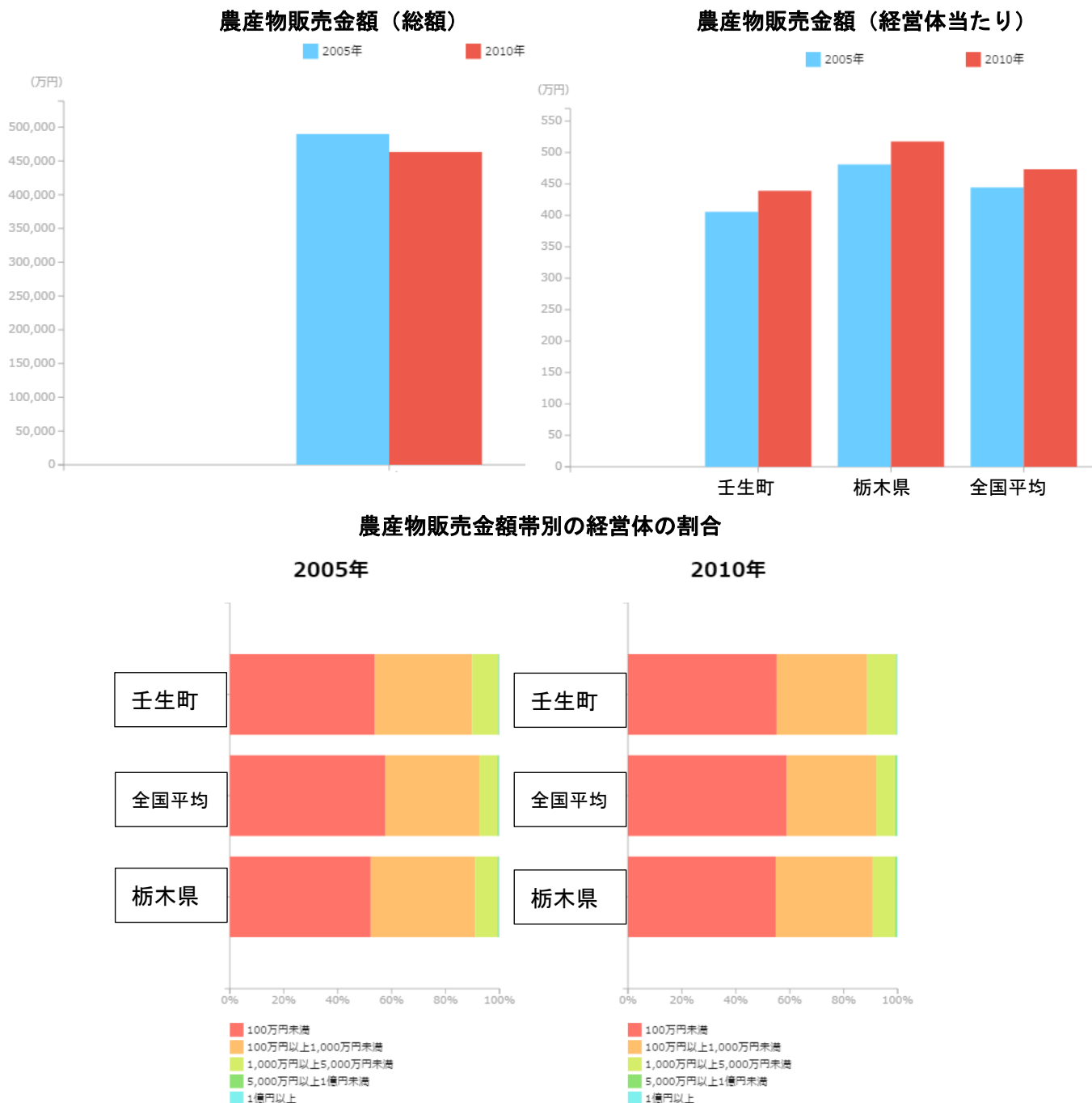
の順に壬生町の現状を確認していく

2. 壬生町の第1次産業

2.1. 壬生町の農産物の販売額

- ・ 2010年（463,300万円）の農産物の販売額は、2005年（489,725万円）と比べ5.7%ほど減少した。壬生町の経営体当たりの販売金額（439万円）は栃木県、全国平均に比べ低いものの2005年（406万円）と比較すると上昇している。
- ・ 販売金額100万円以下の小規模事業者の割合が53.77%から55.13%へ増加している。

図表：壬生町の農産物の販売金額（総額、経営体当たり）と農産物金額帯別の経営体割合



出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者抜粋

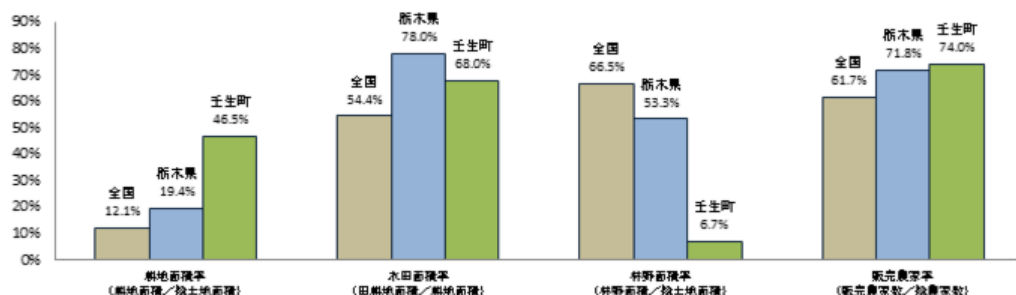
2.2. 壬生町の農林水産業

- ・総土地面積のうち、耕地面積が占める割合が46.5%であり、これは全国や栃木県と比べて高い。
- ・総農家数のうち、販売農家数が74.0%を占め全国や栃木県と比べ高い値となっている。

図表：壬生町の農林水産業の基本指標

■ 面積		■ 世帯等		■ 地域	
総土地面積	6,106 ha(1.0%)	総世帯数	14,214 世帯(1.9%)	農業集落数	46 集落(1.4%)
耕地面積	2,840 ha(2.3%)	農業経営体数	940 経営体(2.3%)	農産物直売所数	9 施設(2.1%)
田耕地面積	1,930 ha(2.0%)	総農家数	1,248 戸(2.3%)	漁港数	—
畑耕地面積	909 ha(3.3%)	自給的農家数	325 戸(2.1%)	漁船隻数	—
林野面積	409 ha(0.1%)	販売農家数	923 戸(2.3%)		
■ 人口		主業農家数	213 戸(2.4%)		
総人口	39,605 人(2.0%)	準主業農家数	296 戸(2.9%)		
農業就業人口	1,299 人(2.1%)	副業的農家数	414 戸(2.0%)		
漁業就業人数	—	林業経営体数	6 経営体(0.3%)		
		漁業経営体数	—		

注1:総人口、総世帯数、農産物直売所数についてはH22年値、漁業就業人数、漁業経営体数、漁船隻数についてはH25年値、その他はH27年値。
注2:()内は都道府県内でのシェア。



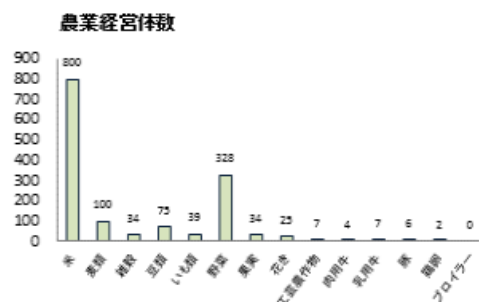
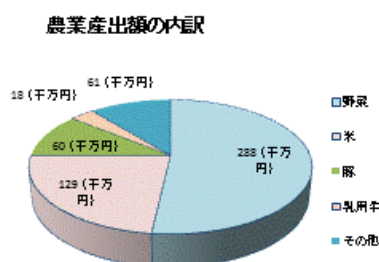
出典：農林水産省『わがマチ・わがムラ』より筆者抜粋

- ・農業経営体数で最も多いのは、米が800経営体、次に野菜が328経営体となる。一方、1経営体あたりの産出額は乳用牛の26百万円にくらべ米が2百万円、野菜が9百万円と低い値となっている。

図表：壬生町の農業部門別生産額・農業経営体数

■ 農業産出額		■ 農業経営体数	
合計	556 千万円 (2.1%)	940 経営体	
耕種計	464 千万円 (2.7%)		
米	129 千万円 (1.8%)	800 経営体	
麦類	11 千万円 (2.2%)	100 経営体	
雑穀	2 千万円 (2.6%)	34 経営体	
豆類	7 千万円 (2.5%)	75 経営体	
いも類	3 千万円 (2.1%)	39 経営体	
野菜	298 千万円 (3.9%)	328 経営体	
果実	7 千万円 (0.8%)	34 経営体	
花き	14 千万円 (1.8%)	25 経営体	
工芸農作物	2 千万円 (1.9%)	7 経営体	
種苗・苗木類・その他	1 千万円 (0.9%)		
畜産計	79 千万円 (0.9%)		
肉用牛	X	4 経営体	
乳用牛	18 千万円 (0.6%)	7 経営体	
うち生乳	15 千万円 (0.5%)		
豚	60 千万円 (3.3%)	6 経営体	
鶏	—		
うち鶏卵	—	2 経営体	
うちブロイラー	—	—	
その他畜産物	X		
加工農産物	13 千万円(15.7%)		

注1:農業産出額についてはH18年値、農業経営体数についてはH27年値。
注2:農業経営体数の合計は実数のため内訳と一致しない。
注3:()内は都道府県内でのシェア。

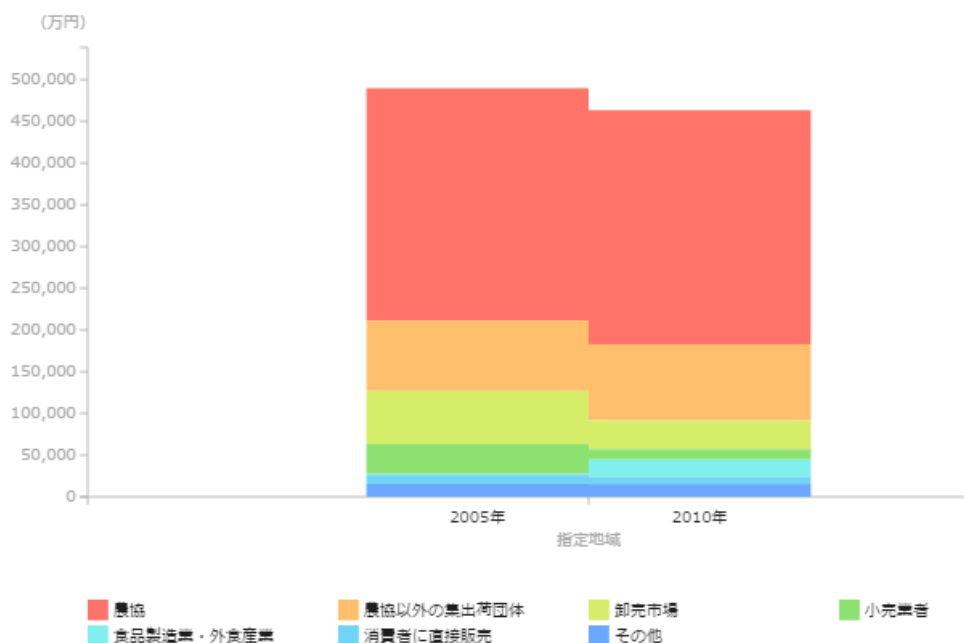


出典：農林水産省『わがマチ・わがムラ』より筆者抜粋

2.3. 壬生町の農産物の出荷先

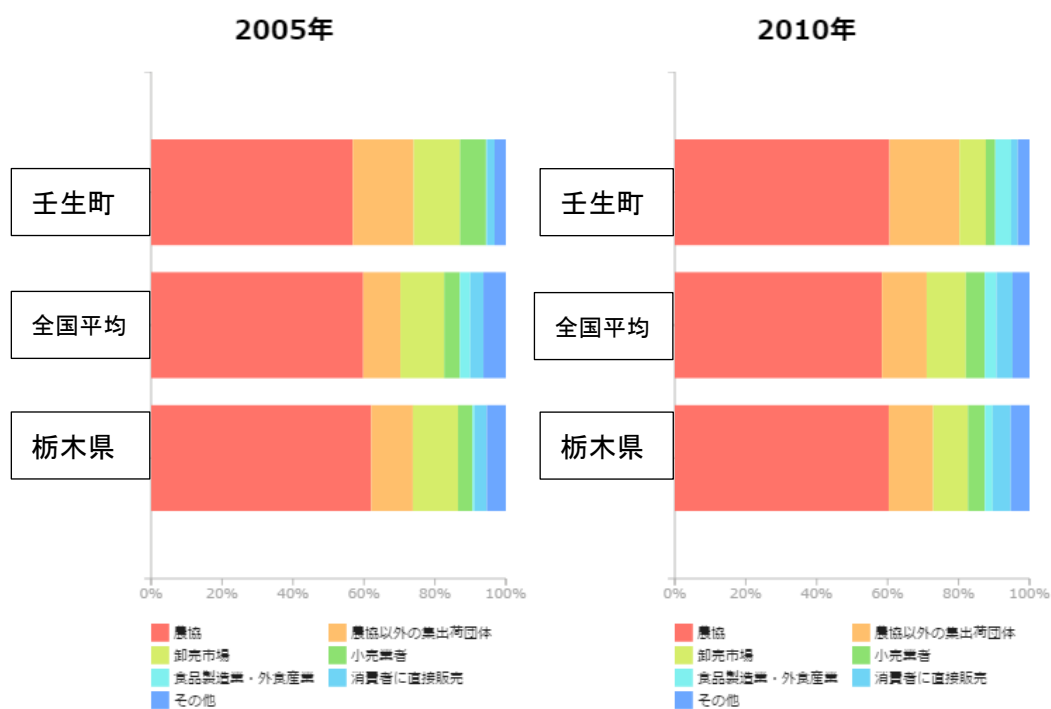
・ 2005 年から 2010 年にかけて壬生町の農産物販売額は 489, 725 万円から 463, 300 万円 (5.7%減)、しかし農協への出荷額は 278, 450 万円から 280, 450 万円 (0.7%増)、農協への出荷割合は 56.9%から 60.5% (3.6%増) となっている。逆に全国・栃木県の農協出荷割合は減少傾向にある。

図表：壬生町の農産物の出荷先別販売金額の構成



出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者抜粋

図表：壬生町の出荷先別経営体の割合



出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者抜粋

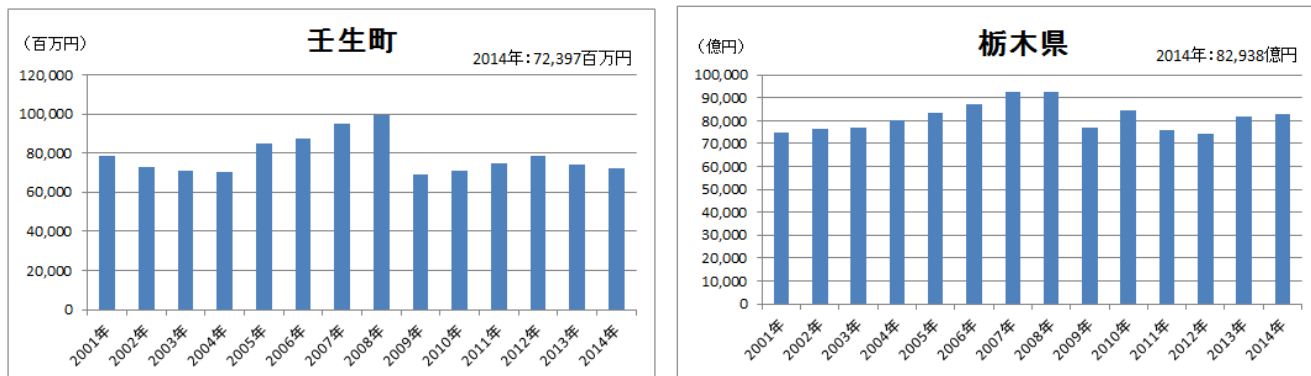
3. 壬生町の第2次産業

3.1. 壬生町の工業動向

3.1.1. 壬生町の工業製品出荷額の推移

・ 栃木県全体、壬生町ともに 2009 年に急激な出荷額の落ち込みが見られる。2009 年以降の出荷額推移は、栃木県全体では 2006 年時点の出荷額までの回復がみられる。一方、壬生町は 2009 年の出荷額とほぼ同等の数値での推移となっている。

図表：壬生町[左]と栃木県[右]の工業製造品出荷額等の推移

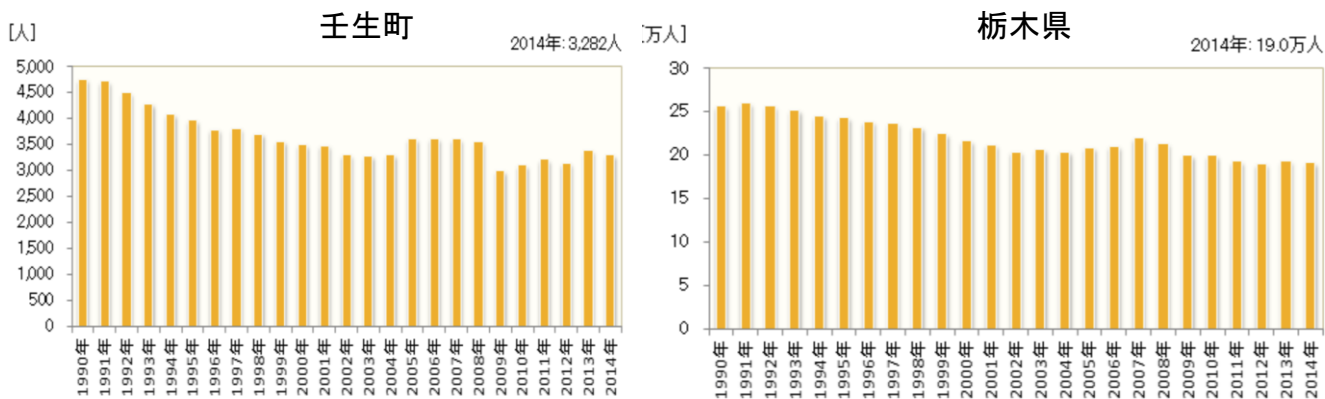


出典：栃木県『「栃木県の工業」(平成 26 年工業統計調査結果報告書)』

3.1.2. 壬生町の工業従事者の推移

・ この 25 年間で、栃木県も壬生町も緩やかに従業員数が減少している。栃木県全体では 2007 年付近に一度盛り返したが、そこからまた減少の一途を辿っている。
 壬生町では、2005 年から 2008 年に増加するものの 2009 年に減少。しかし近年では栃木県全体とは異なり増加の兆しをみせている。

図表：壬生町[左]と栃木県[右]の工業従事者の推移

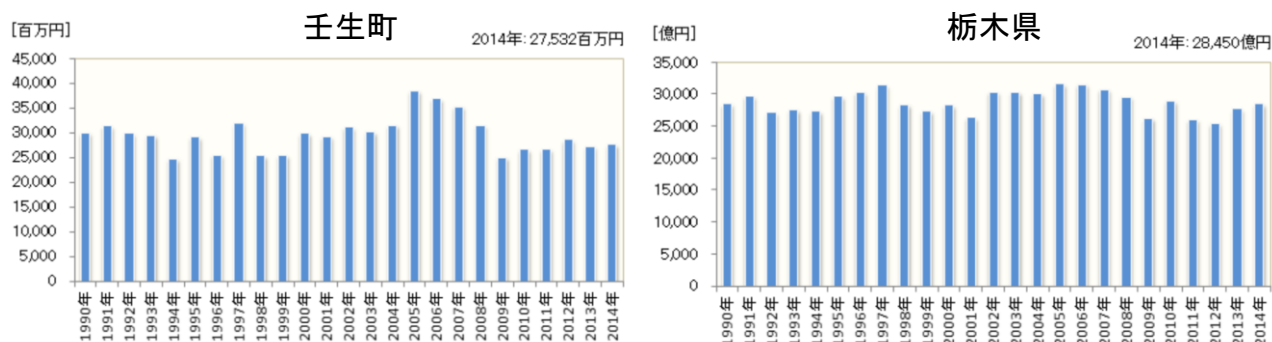


出典：GD Freak <<http://jp.gdfreak.com/>> 2016/12/14

3.1.3. 壬生町の工業粗付加価値額の推移

- ・粗付加価値額は出荷額と同様に 2009 年に落ち込んでいる。
- ・栃木県全体が 2012 年から 2014 年にかけて上昇しているのに対し、壬生町では横ばいとなっている。
- ・出荷額と連動していることから、原材料や仕入原価などの変動費といったことが要因ではないと推測される。

図表：壬生町 [左] と栃木県 [右] の粗付加価値額の推移

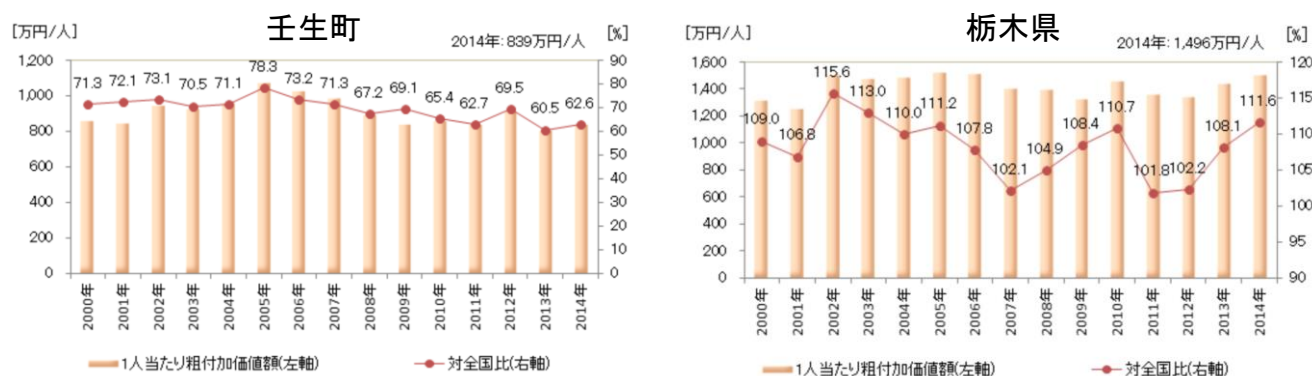


出典：GD Freak <<http://jp.gdfreak.com/>> 2016/12/14

3.1.4. 壬生町の 1 人あたりの粗付加価値額の推移

- ・2014 年の 1 人あたりの粗付加価値額は、壬生町が 839 万円に対し、栃木県は 1,496 万円だった。
- ・この 14 年間では全国対比 60%から 78%程度で推移している。栃木県全体が全国対比で常に 100%以上で推移していることから、栃木県全体と比べても低い値となっている。

図表：壬生町 [左] と栃木県 [右] の 1 人あたり粗付加価値額の推移



出典：GD Freak <<http://jp.gdfreak.com/>> 2016/12/14

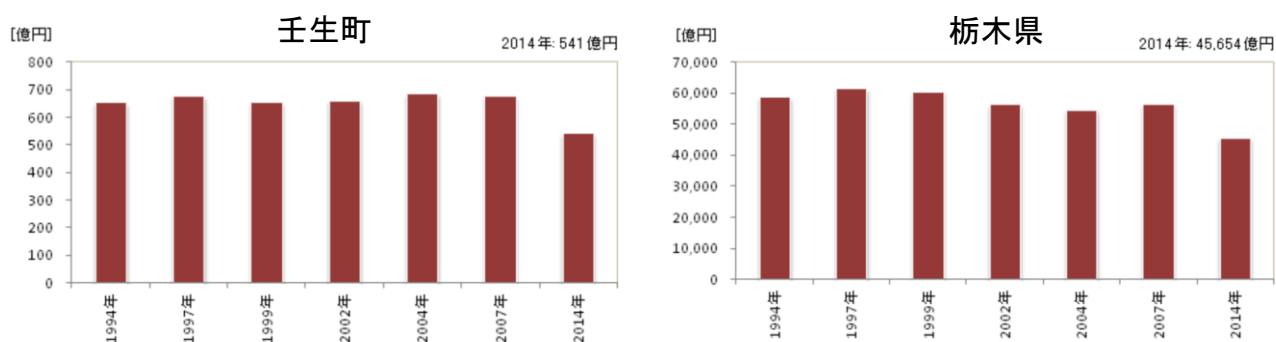
4. 壬生町の第3次産業

4.1. 壬生町の商業動向

4.1.1. 壬生町の年間商業販売額の推移

- ・ 2014年の年間商業販売額は、壬生町が541億円に対し、栃木県は45,654億円だった。
- ・ 壬生町、栃木県全体ともに2014年に過去7年間で最大の落ち込みとなっている。

図表：壬生町〔左〕と栃木県〔右〕の商業年間販売額の推移

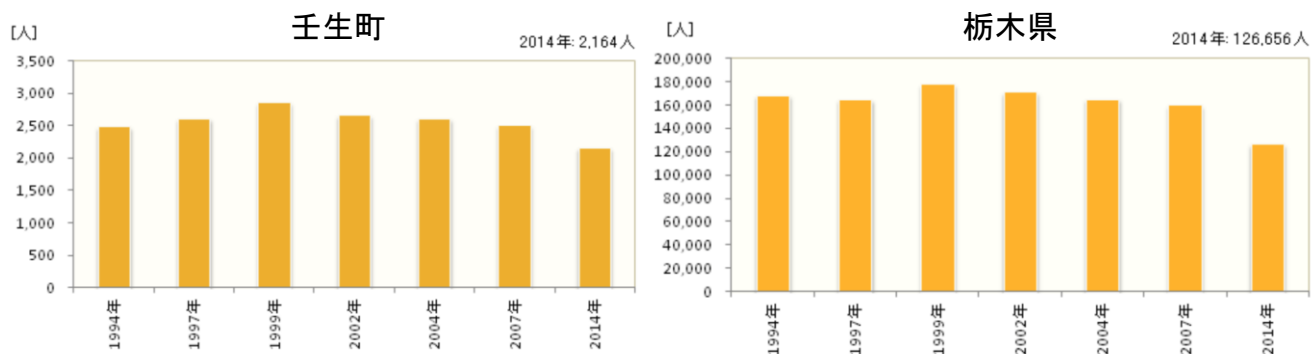


出典：GD Freak <<http://jp.gdfreak.com/>> 2016/12/14

4.1.2. 壬生町の商業の従業者数の推移

- ・ 2014年の従業者数は2,164人。1994年以降で最も多い1999年に比べ24.4%減少している。一方、栃木県の従業者数は、126,656人。1994年以降で最も多い1999年に比べ28.9%減少している。どちらも直近10年で減少の一途を辿っている。

図表：壬生町〔左〕と栃木県〔右〕の商業の従業者数の推移

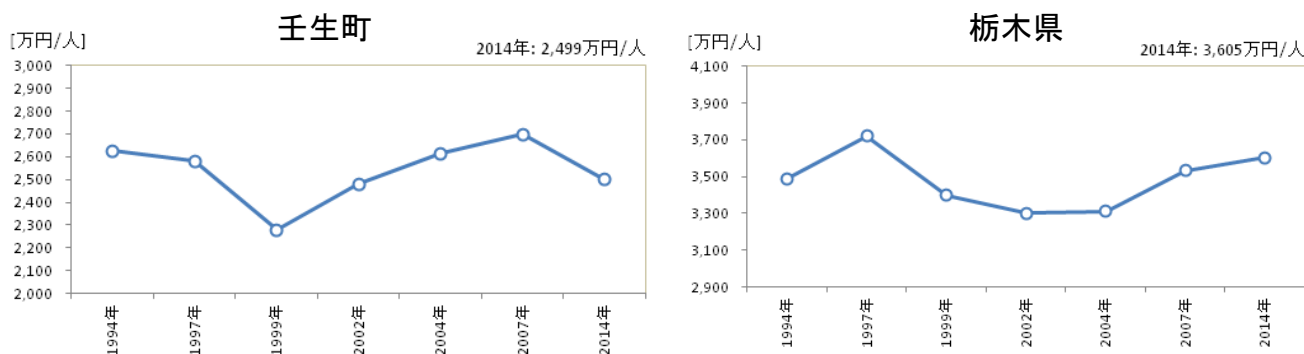


出典：GD Freak <<http://jp.gdfreak.com/>> 2016/12/14

4.1.3. 壬生町の商業従事者一人当たり年間商品販売額の推移

・2014年の従業員1人当たりの商品販売額は、2,499万円。2007年と比べても-7.4%となっている。一方、栃木県は36百万円と壬生町よりも高い水準であり、2007年比は2.0%増であった。

図表：壬生町[左]と栃木県[右]の商業従事者一人当たり年間商品販売額の推移



出典：GD Freak <<http://jp.gdfreak.com/>> 2016/12/14

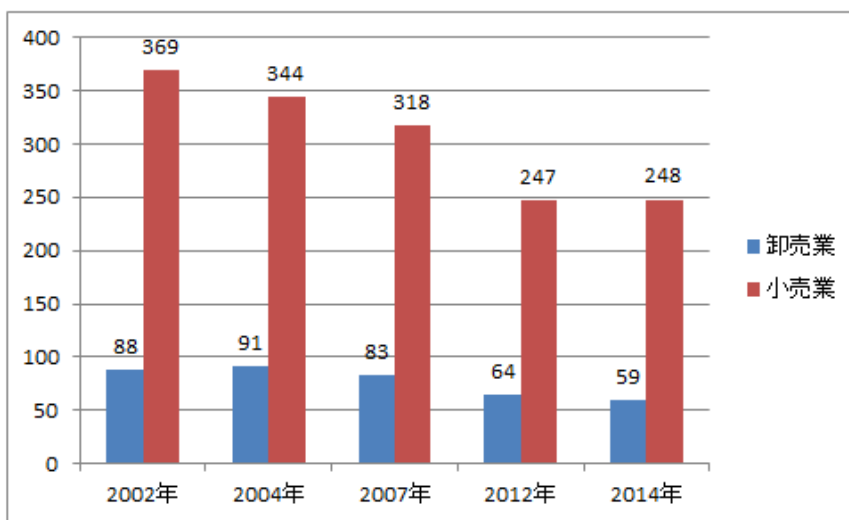
4.2. 壬生町の商業の産業分類別動向

商業統計表と経済センサスをもとに商業を卸・小売りごと、小売業を産業分類の項目ごとに分析をする。なお、壬生町には、各種小売業3事業所（従業員数計61名/2014年）と無店舗小売業9事業所（従業員数106名/2014年）があるが、年間商品販売額が不明な年があるため、本分析対象から除外している。

4.2.1. 壬生町の卸・小売業の事業所数推移

・小売業は2012年まで減少を続けたが、2014年には微増となっている。一方、卸売業は、2002年から2007年までは横ばいを維持したものの2014年には2007年と比べ29%減少している。

図表：壬生町_卸・小売業の事業所数推移

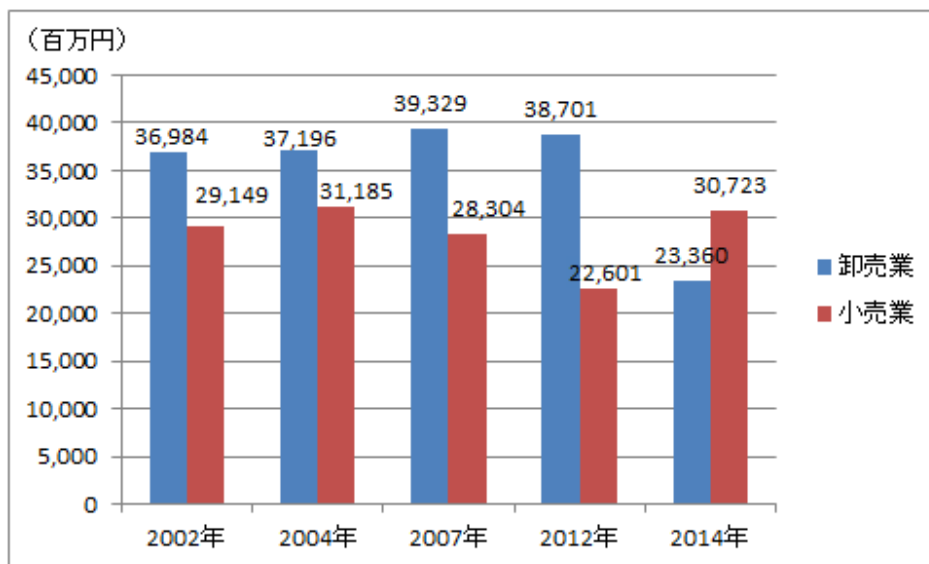


出典：経済産業省『商業統計』より筆者作成 注) 但し2012年は総務省統計局『経済センサス』より

4.2.2. 壬生町の卸・小売業の年間商品販売額推移

・2012年まで卸売業は横ばいで推移、一方小売業は減少傾向であり2002年から2012年まで一貫して卸売業の金額が小売業の金額を上回っていた。2014年には2012年比で卸売業が約40%減となり小売業が36%増となったことから卸売業と小売業の関係が逆転している。

図表：壬生町_卸・小売業の年間商品販売額推移

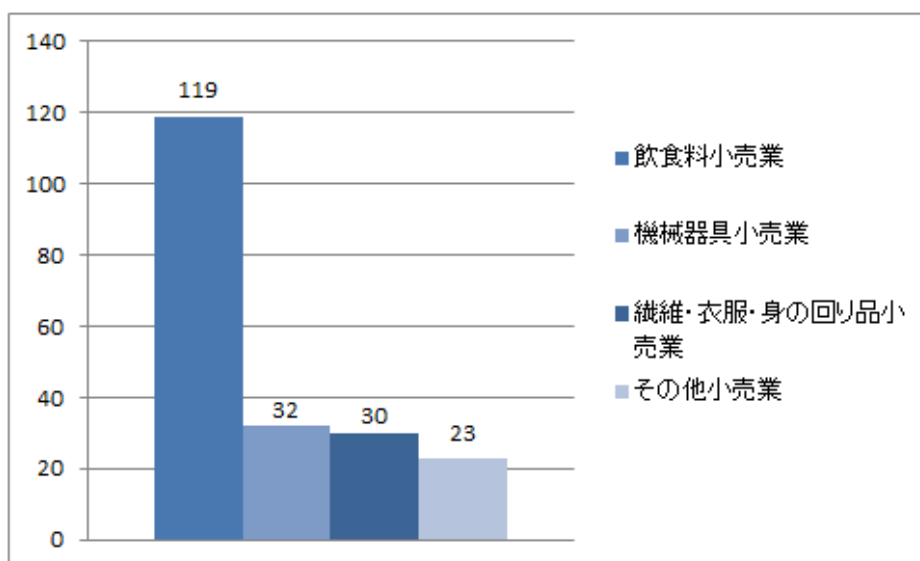


出典：経済産業省『商業統計』より筆者作成 注) 但し2012年は総務省統計局『経済センサス』より

4.2.3. 壬生町の小売業の事業所数の推移

・2007年は、飲食料小売業が119事業所と最も多く、機械器具小売業(32事業所)、繊維・衣服・身の回り品小売業(30事業所)、その他小売業(23事業所)がそれに続いた。

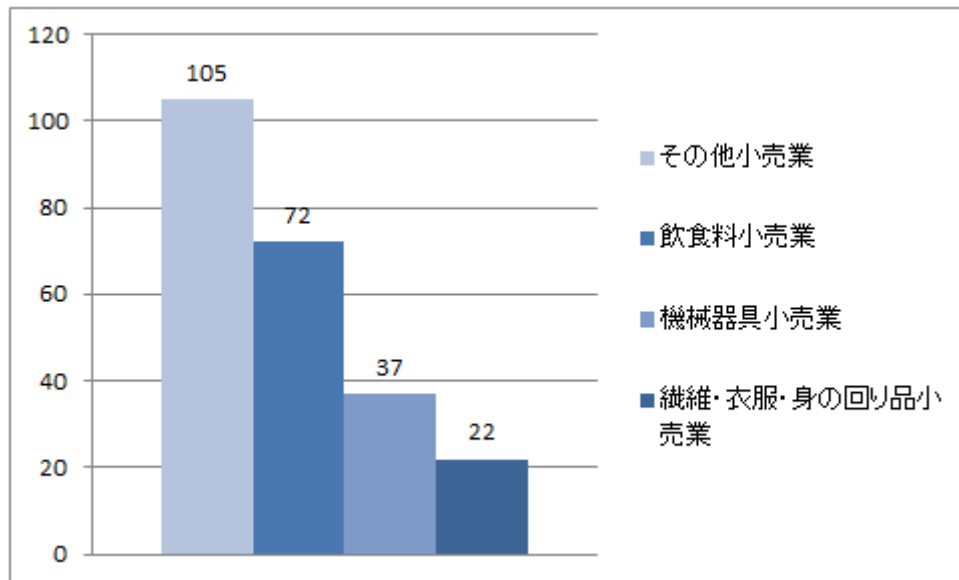
図表：壬生町_小売業の産業分類別事業所数(2007年)



出典：経済産業省『商業統計』より筆者作成

- ・ 飲食小売業は 2007 年と比べ 47 事業所（40%）減少した。一方その他小売業が約 4.5 倍の 105 事業所となり最多となっている。
- ・ 機械器具小売業、繊維・衣服・身の回り品小売業は、横ばいとなっている。

図表：壬生町__小売業の産業分類別事業所数（2014 年）

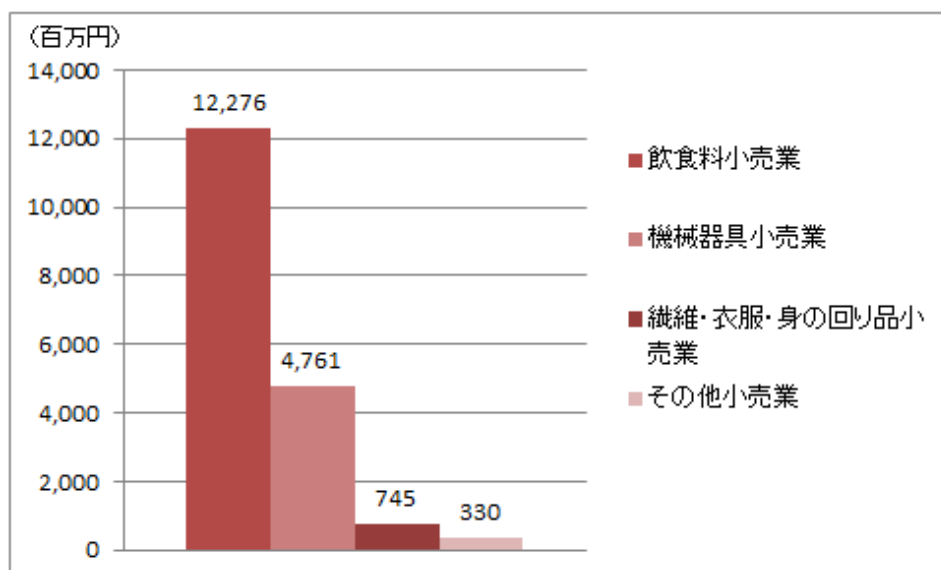


出典：経済産業省『商業統計』より筆者作成

4.2.4. 壬生町の小売業の産業分類別年間商品販売額の推移

- ・ 2007 年は飲食小売業の販売金額が 120 億円を超え、それに続く機械器具小売業（47.6 億円）の 2 倍以上となっている。

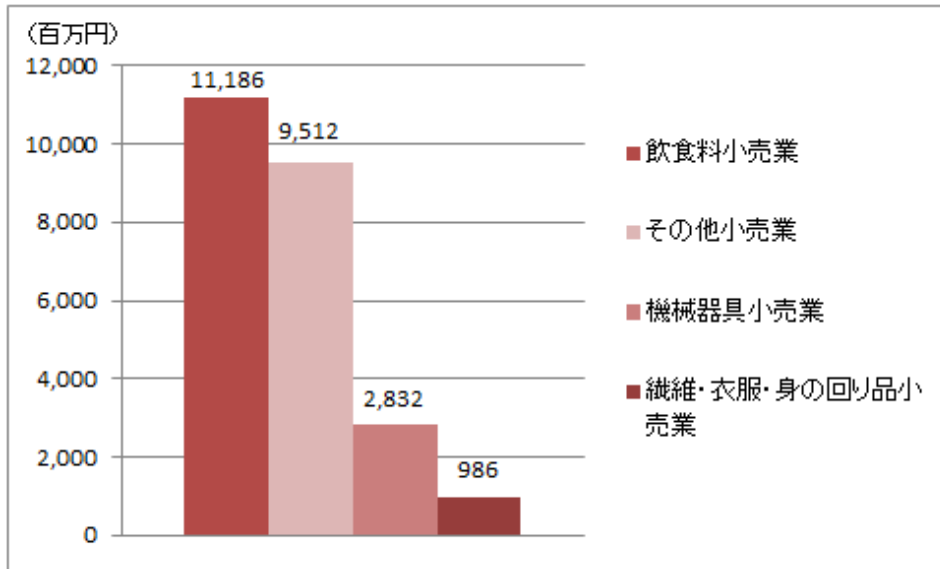
図表：壬生町__小売業の産業分類別年間商品販売額（2007 年）



出典：経済産業省『商業統計』より筆者作成

・2014年は、飲食料小売業が10億円程度減少し、事業所数でも40%減少したが1位を維持している。一方その他小売業が2007年比で事業所数とともに大幅に伸び2番目の額となっている。

図表：壬生町_小売業の産業分類別年間商品販売額（2014年）

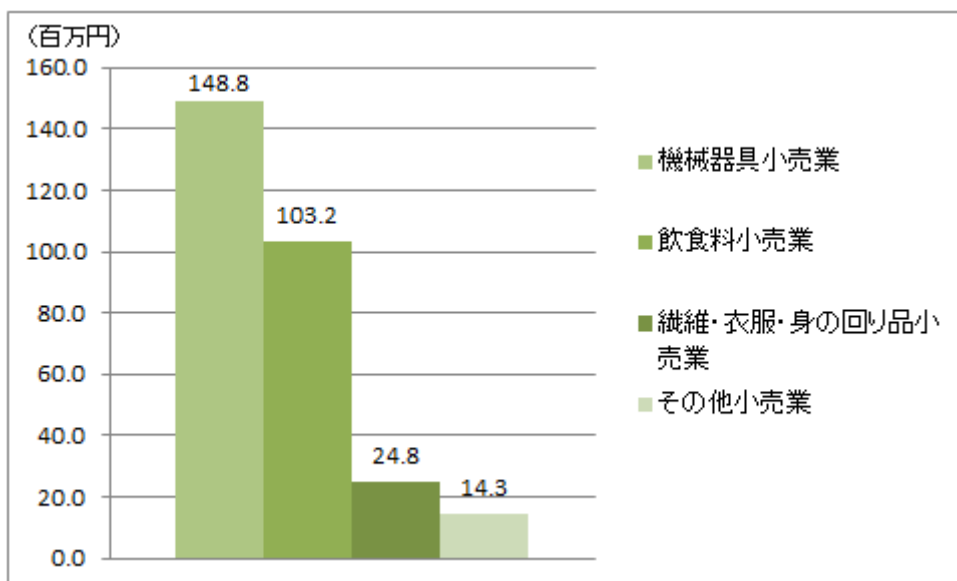


出典：経済産業省『商業統計』より筆者作成

4.2.5. 壬生町の小売業の産業分類別1事業所あたり年間商品販売額の推移

・2007年は、機械器具小売業が1.4億円と最も多く、飲食料小売業（1.0億円）、繊維・衣服・身の回り品小売業（2,400万円）、その他小売業（1,400万円）がそれに続いた。

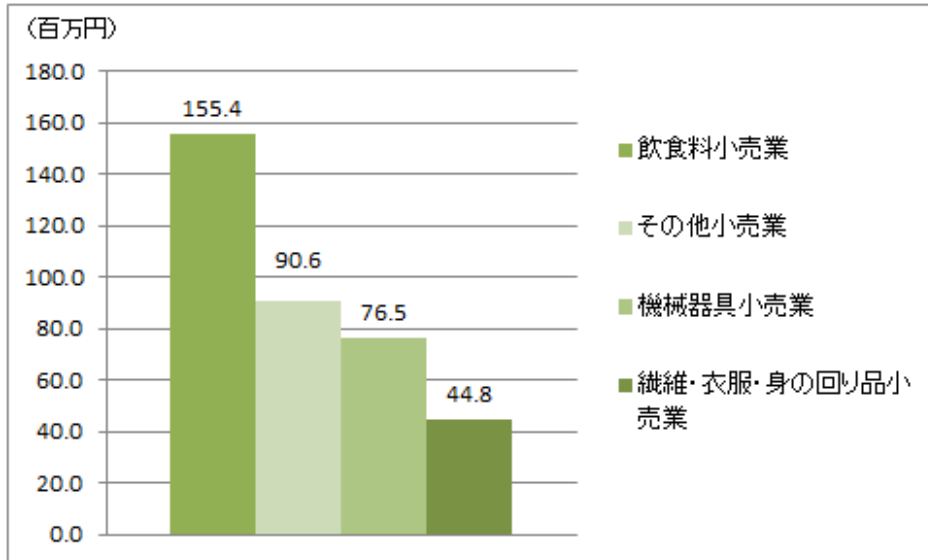
図表：壬生町_小売業の産業分類別1事業所あたり年間商品販売額（2007年）



出典：経済産業省『商業統計』より筆者作成

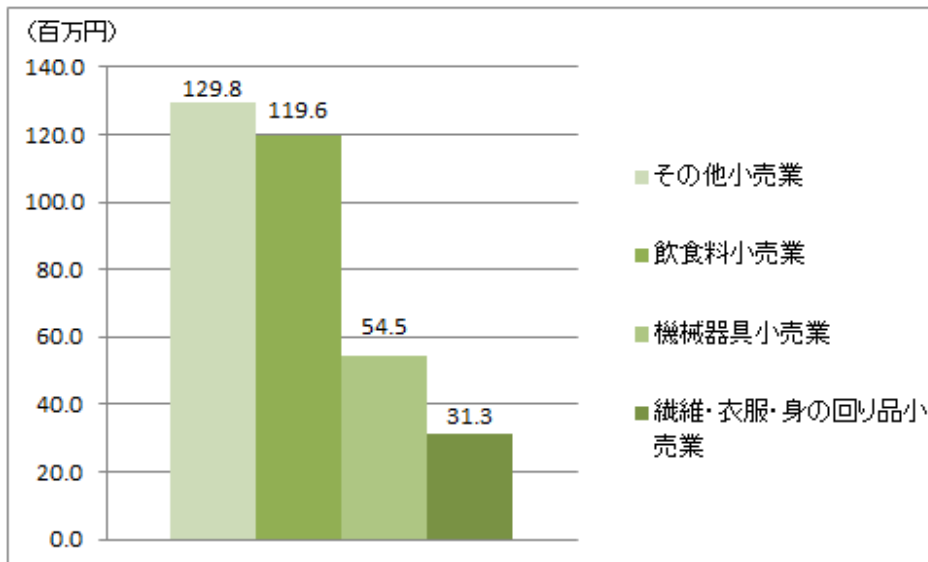
- ・2014 年は、飲食小売業が 15 億円で最多となっている。事業所数が大きく減少したが 1 事業所当たりの年間商品販売額は増加しており業界内の淘汰が進んだと推測される。
- ・その他小売業が事業所数の増加に伴い 1 事業所当たりの年間商品販売額も上昇し 2 位となった。一方 2007 年では 1 位であった機械器具小売業は約 50%の減少となっている。

図表：壬生町__小売業の産業分類別 1 事業所あたり年間商品販売額（2014 年）



出典：経済産業省『商業統計』より筆者作成

図表：cf. 栃木県の町村合計 1 事業所あたり年間商品販売額（2014 年）



出典：経済産業省『商業統計』より筆者作成

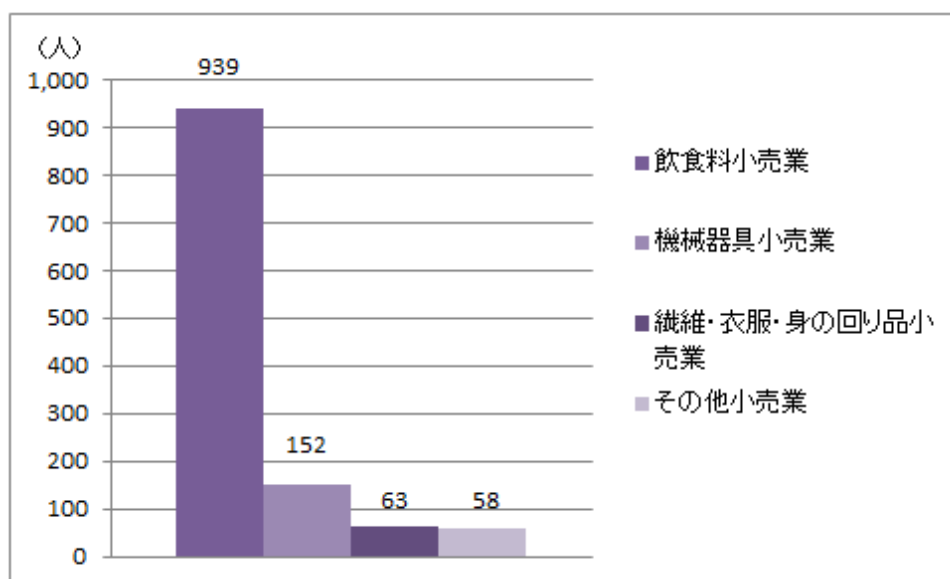
『総評』

- ・ 飲食料小売業では、2014年の事業所数が2007年比で約40%減少したが年間商品販売額は約9%の減少にとどまった。一方、1事業所あたり年間商品販売額は150%増加した。2007年から2014年にかけて減少した事業所の多くが販売効率の低い事業所であったことが伺える。
- ・ 機械器具小売業の事業所数は2007年から2014年にかけて横ばいとなっているが、2014年の年間商品販売額は2007年比で約40%減少している。それに伴って、2014年の1事業所あたり年間商品販売額も約50%の減少となった。
- ・ その他小売業の事業所数は、2014年に2007年比で約4.5倍の増加となっている。それに伴って2014年の年間商品販売額も2007年比で28倍と大きく増加している。1事業所あたりの年間商品販売額でも2014年には、機械器具小売業を上回り飲食料小売業に次ぐ金額となっている。
- ・ 2014年の1事業所あたり年間商品販売額の栃木県平均との比較では、その他小売業を除く全業種で栃木県平均を上回ることから、壬生町小売業全体の事業所単位における販売効率は良い水準にあると思われる。

4.2.6. 壬生町の小売業の産業分類別従業員数の推移

- ・ 2007年は、飲食料小売業が939人と多く、機械器具小売業（152名）、繊維・衣服・身の回り品小売業（63名）、その他小売業（58名）がそれに続いた。

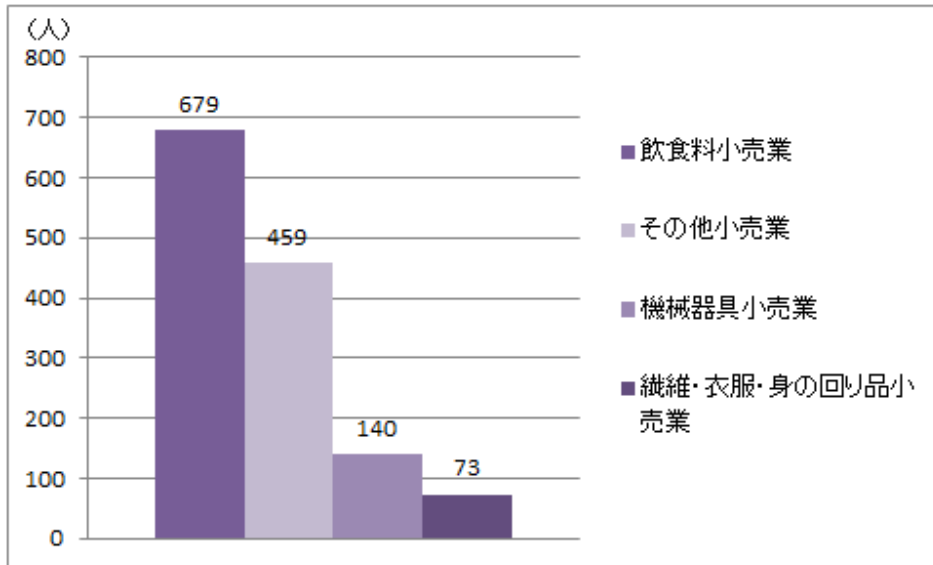
図表：壬生町_小売業の産業分類別従業者数（2007年）



出典：経済産業省『商業統計』より筆者作成

・2014年では、飲食料小売業で2007年と比べ約27%減少したものの最多となっている。一方、その他小売業で2007年と比べ約8倍増加。機械器具小売業と繊維・衣服・身の回り品小売業では2007年比で横ばいとなっている。

図表：壬生町__小売業の産業分類別従業者数（2014年）

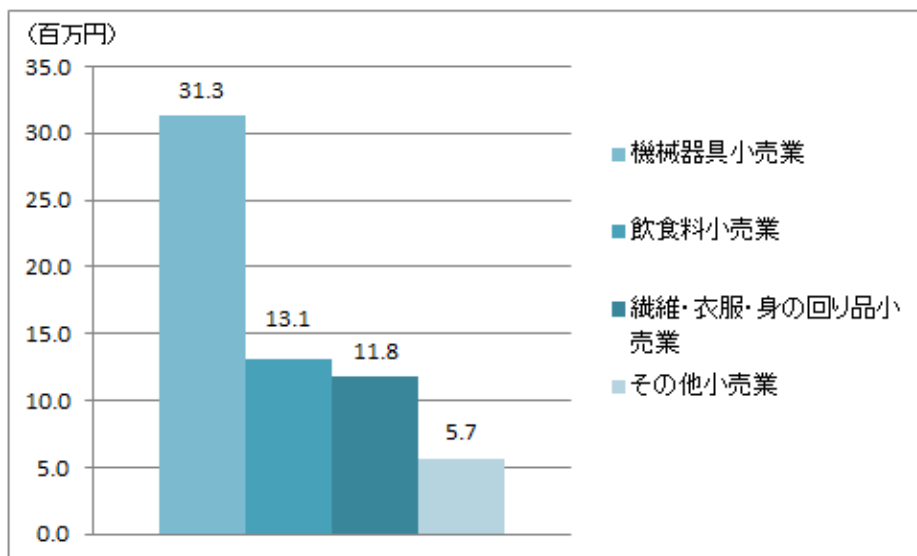


出典：経済産業省『商業統計』より筆者作成

4.2.7. 壬生町の小売業の産業分類別従業員1人あたり年間商品販売額推移

・2007年は、機械器具小売業が3,100万円と多く、飲食料小売業（1,300万円）、繊維・衣服・身の回り品小売業（1,100万円）、その他小売業（500万円）がそれに続いた。

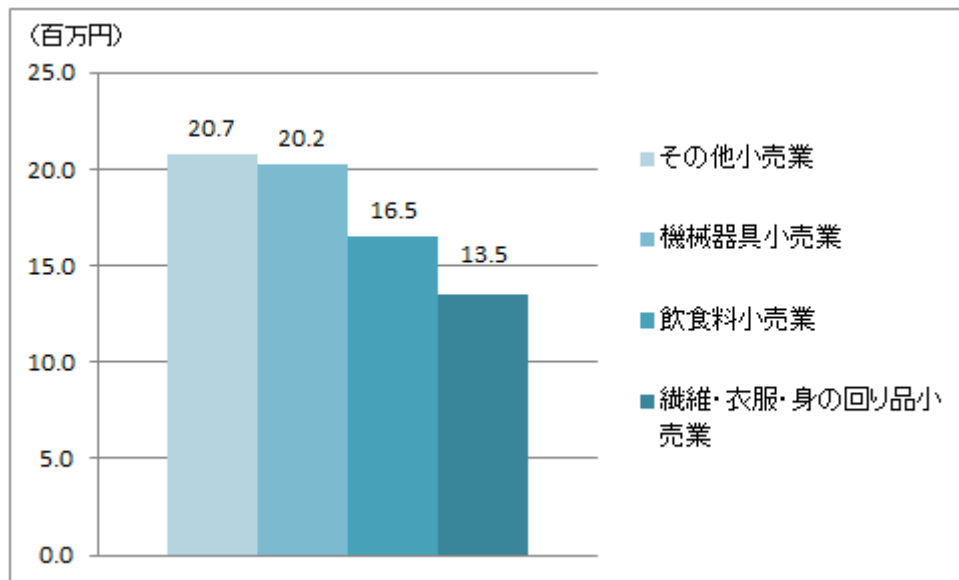
図表：壬生町__小売業の産業分類別従業員1人あたり年間商品販売額（2007年）



出典：経済産業省『商業統計』より筆者作成

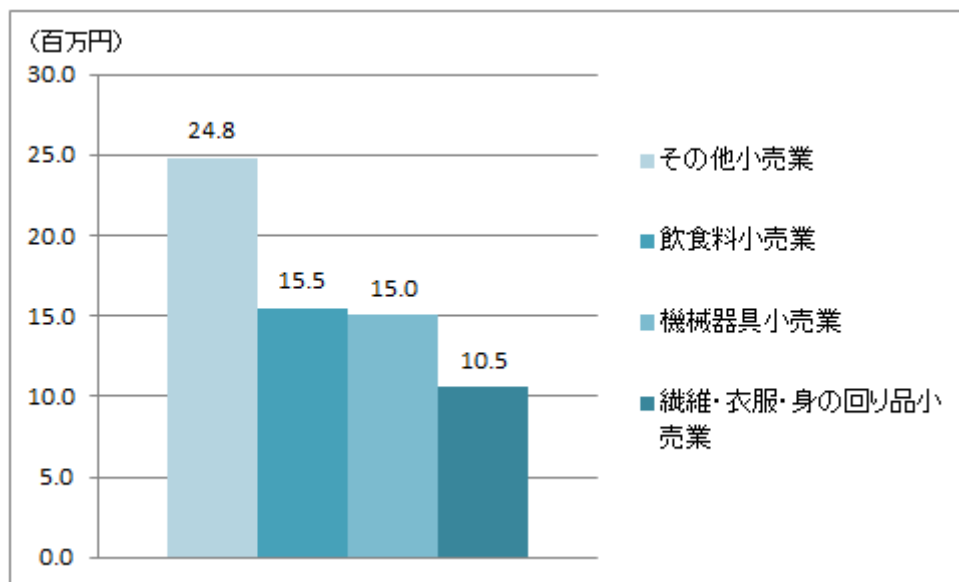
・2014 年では、その他小売業が 2,070 万円となり最多となった。機械器具小売業は、2007 年から約 1,100 万円減少し 2,020 万円。飲食料小売業（1,650 万円）、その他小売業（1,350 千円）はともに増加しそれに続いた。

図表：壬生町_小売業の産業分類別従業員 1 人あたり年間商品販売額（2014 年）



出典：経済産業省『商業統計』より筆者作成

図表：cf. 栃木県の町村合計従業員 1 人あたり年間商品販売額（2014 年）



出典：経済産業省『商業統計』より筆者作成

『総評』

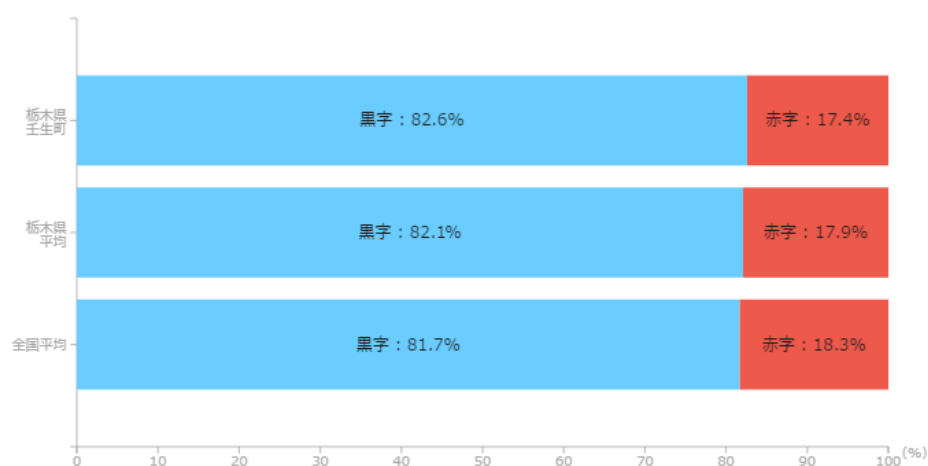
- ・ 飲食料小売業の従業員数は、2007年から2014年で260名（約27%）減少。これは、事業所数の減少に伴うものと推測される。一方、従業員1人あたりの年間商品販売額は、340万円（120%）増加となった。1事業所あたりの年間商品販売額に比べると微増にとどまっている。
- ・ 機械器具小売業は、2007年から2014年にかけて横ばいで推移し事業所数と同様の推移となっている。従業員1人あたりの年間商品販売額でも1,100万円（約33%）減少し1事業所あたりの年間商品販売額と同様の推移となっている。
- ・ その他小売業の従業員数は、2007年から2014年にかけて約8倍の459名となり401名増加している。こちらも同様に事業所数の増加が要因と推測される。従業員1人あたりの年間商品販売額も3.6倍増加し機械器具小売業を上回る販売効率まで向上している。
- ・ 従業員1人あたりの年間商品販売額を栃木県平均と比較すると、1事業所あたり年間商品販売額と同様にその他小売業以外の小売業において栃木県平均を上回っている。

5. 壬生町のその他の指標

5.1. 壬生町の黒字赤字企業比率

- ・ 壬生町の黒字企業比率は、全国平均・栃木県平均と同水準を維持している。また、その水準も黒字企業比率が82.6%と堅実な企業経営を行う事業者が多いことが分かる。

図表：壬生町__黒字赤字企業比率（2012年）



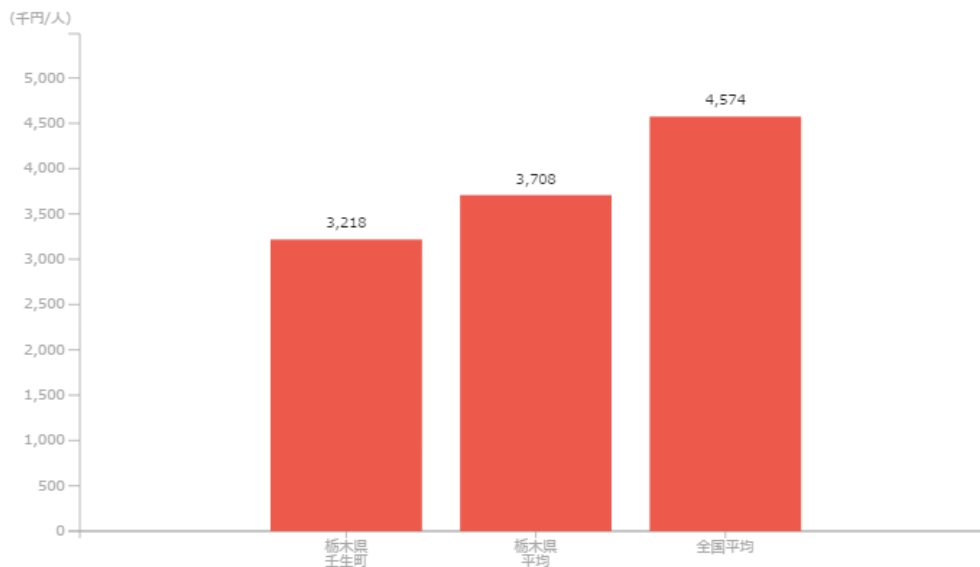
出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者抜粋

5.2. 壬生町の労働生産性

5.2.1. 壬生町の産業全体の労働生産性

・壬生町全産業の労働生産性は、栃木県平均と比べ 49 万円、全国平均と比べ 135 万円低い金額となっている。 ※労働生産性 = 付加価値 ÷ 従業員数

図表：壬生町_全産業の労働生産性（2012 年）

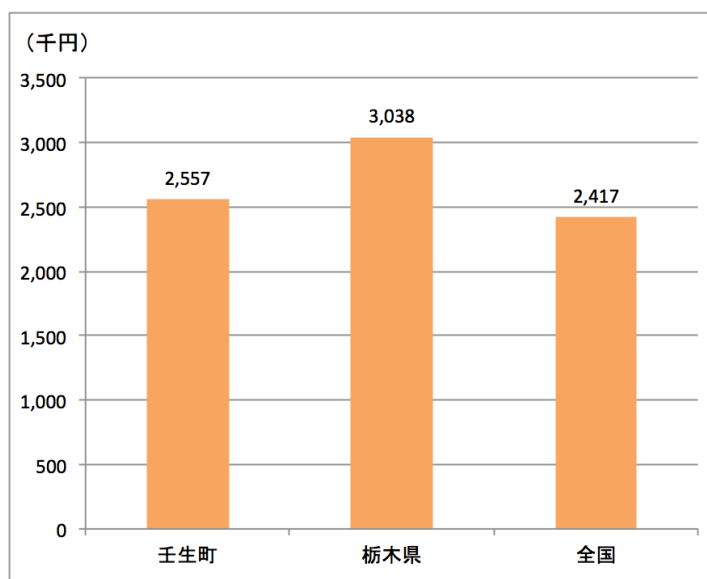


出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者抜粋

5.2.2. 壬生町の1次産業の労働生産性

・1次産業の労働生産性は、栃木県平均の水準よりは低いものの全国平均の水準を約5%上回る値となっており壬生町の産業全体の生産性を低下させる大きな要因とは考えにくい。

図表：壬生町_1次産業の労働生産性（2012 年）

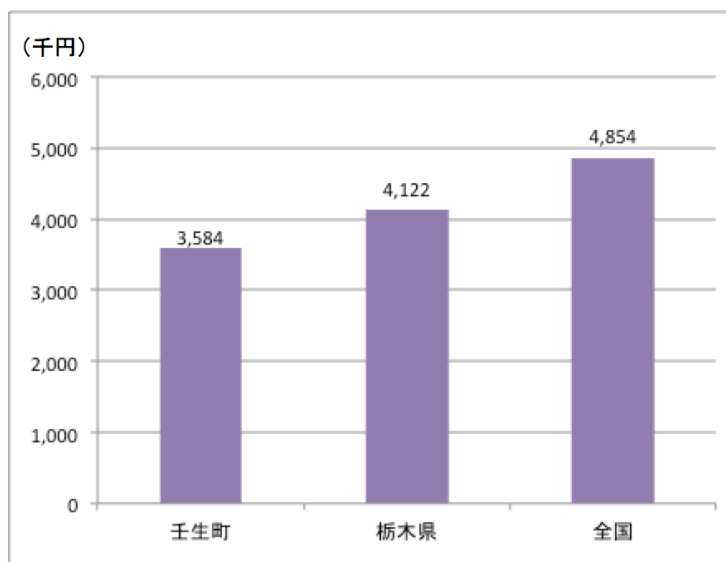


出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者作成

5.2.3. 壬生町の2次産業の労働生産性

- ・ 2次産業の労働生産性は、栃木県平均より53万円、全国平均より127万円低くなっている。
- ・ 絶対額では、壬生町の第1次産業、第3次産業を上回る金額となっている。

図表：壬生町_2次産業の労働生産性（2012年）

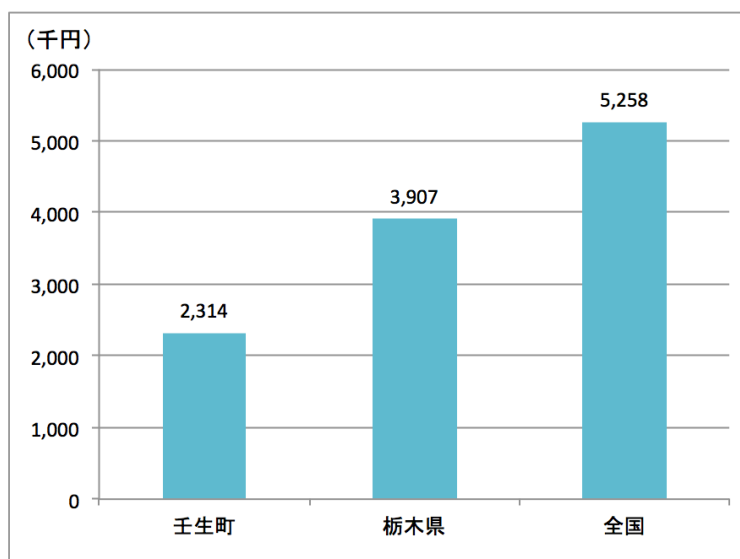


出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者作成

5.2.4. 壬生町の3次産業の労働生産性

- ・ 3次産業の労働生産性は、栃木県より159万円、全国より294万円低い金額となっている。
- ・ 絶対額でも第1次産業（255万円）第2次産業（358万円）と比べ低くなっており、壬生町的全産業の中でも労働生産性の改善の余地が大きい産業であると推測される。

図表：壬生町_3次産業の労働生産性（2012年）

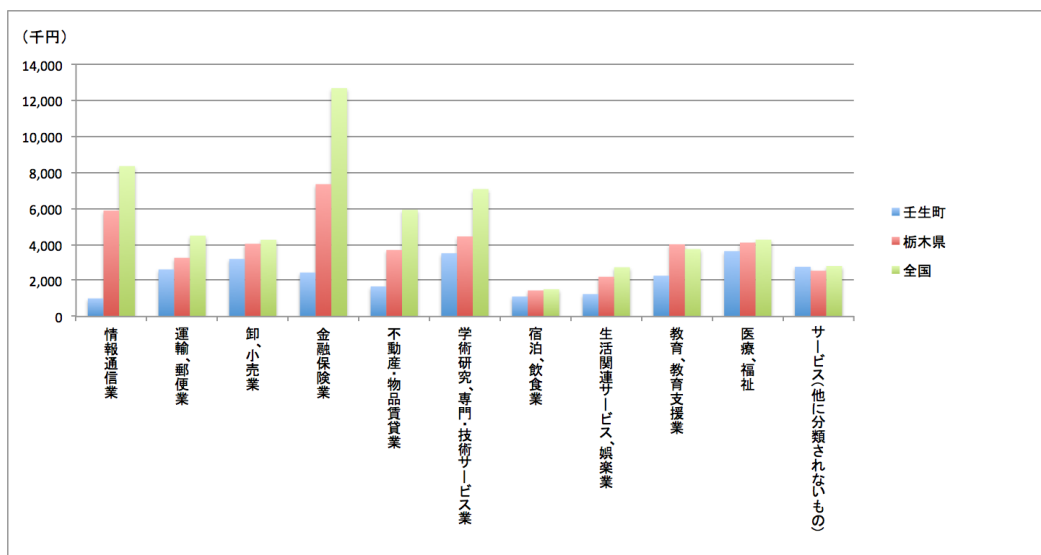


出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者作成

5.2.5. 壬生町の3次産業の産業分類別労働生産性

・サービス（他に分類されないもの）(2,761百万円)のみが栃木県平均、全国平均を上回っているが、それ以外の産業ではすべて下回っている。

図表：壬生町_3次産業の産業分類別労働生産性（2012年）



出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者作成

『総評』

- ・壬生町の全産業における労働生産性は、約320万円と栃木県平均（370万円）、全国平均（450万円）と比べ低い値となっている。
- ・産業別にみると、栃木県平均、全国平均との差が大きいのは第3次産業であり栃木県平均より159万円、全国平均より294万円低くなっている。
- ・第3次産業の産業分類別労働生産性（2012年）では、サービス（他に分類されないもの）が栃木県平均、全国平均と同水準であったものの、それ以外の産業ではすべて栃木県平均、全国平均を下回る結果となっている。
- ・壬生町の産業別売上金額において約4割を占め最多となっている卸・小売業では、1事業所あたりの年間商品販売額、従業員1人あたりの年間商品販売額ともに2014年で栃木県平均の数値を上回っている。しかし、従業員1人あたりの付加価値額（*売上高-費用総額+給与総額+租税公課）である労働生産性では栃木県平均や全国平均を下回る結果となっている。

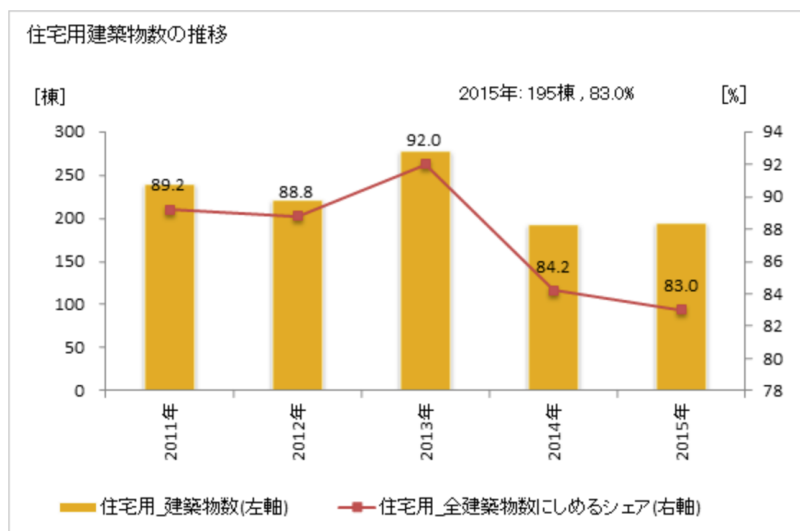
* 総務省統計局 <http://www.stat.go.jp/data/e-census/topics/topi731.htm> より

5.3. 壬生町の建築動向

5.3.1. 壬生町の住宅用建築物数の推移

- ・ 2015 年の住宅用建築物数は前年比 1.6% 増の 195 棟。前年より 2 年ぶりの増加となった。
- ・ 2015 年の住宅用建築物の全建築物に占める割合は 83% となっている。

図表：壬生町_住宅用建築物数の推移

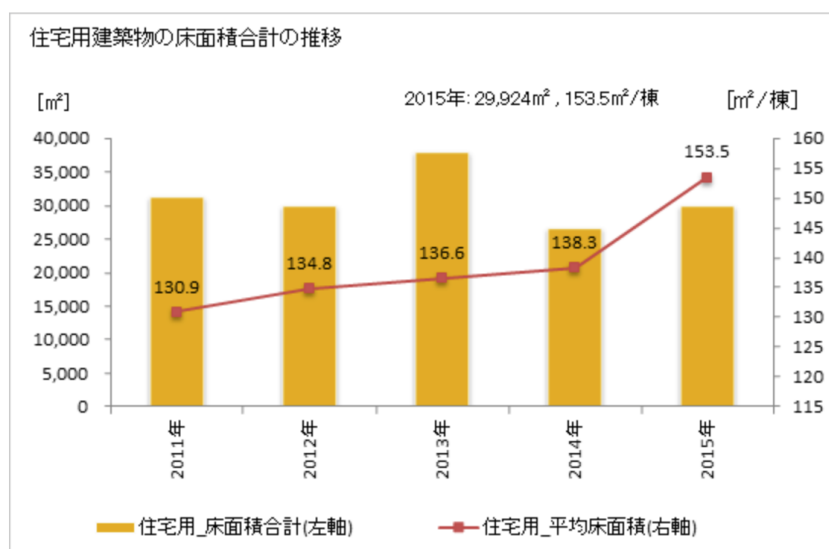


出典：GD Freak <<http://jp.gdfreak.com/>> 2016/12/14

5.3.2. 壬生町の住宅用建築物の床面積合計の推移

- ・ 2015 年における壬生町の住宅用建築物の床面積合計は前年比 12.7% 増の 29,924m² となり 2 年ぶりの前年度比で増加となった。
- ・ 1 棟あたりの平均床面積は、153.5 m² と 2011 年以降増加の一途をたどっている。

図表：壬生町_住宅用建築物の床面積合計の推移

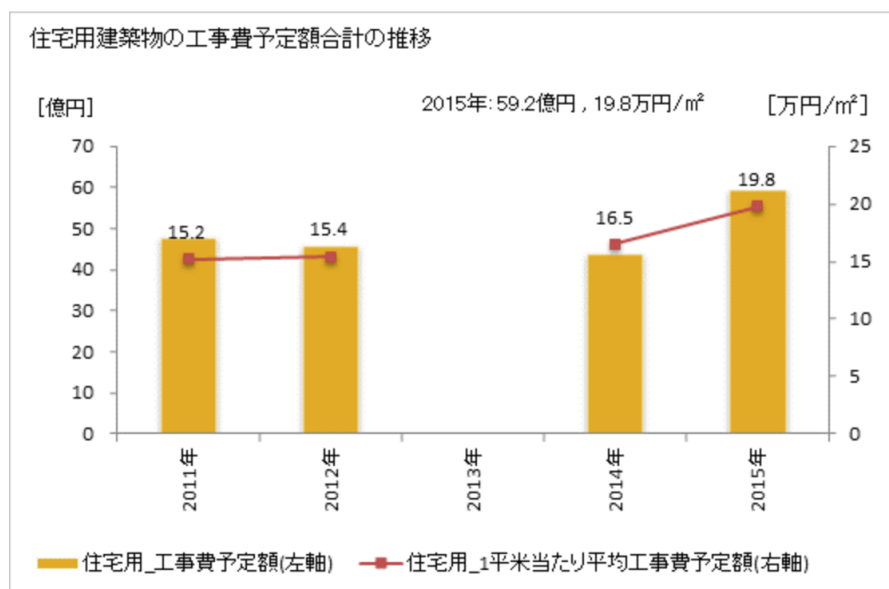


出典：GD Freak <<http://jp.gdfreak.com/>> 2016/12/14

5.3.3. 壬生町の住宅用建築物の工事費予定額合計の推移

- ・ 2015 年の住宅用建築物における工事費の予定額合計は、59.2 億円と前年比で増加となっている。
- ・ 2015 年の 1 平米あたり平均工事費予定額も 19.8 万円/m² と 2011 年以降 15~16 万円/m² で推移してきた金額から約 3 万円/m² の増加となっている。

図表：壬生町_住宅用建築物の工事比予定額合計の推移



出典：GD Freak <<http://jp.gdfreak.com/>> 2016/12/14

【作成/監修】

フィクサス・コンサルティング株式会社
中小企業診断士 大橋 文彦